

*Circle for Elegant ski*  
*2017-2018*

**SPUR**

## はじめに…

こんにちは。第52代渉外部の鈴木と申します。エレガントスキー部では毎年2~4年生が1年を振り返り、「SPUR」を書いています。「SPUR」とはドイツ語で「軌跡」を意味します。各部員が1年間の「軌跡」を文字に起こすことで改めて昨年度1年間を振り返り、今年度の飛躍を目指すことが目的でもあります。

さて、ここには各部員の”喜び”、”後悔”、”感謝”、”目標”、”覚悟”と言った様々な想いが綴られています。エレガントスキー部で同じ活動をしていながら、1年間の感じ方は本当に人それぞれです。お互いの「SPUR」を読んで仲間の知らない一面が見えたりすることもあるのではないのでしょうか。

また今年度も喜ばしいことに多くの新入部員を1年目として迎え入れることが出来ました。是非1年生も「SPUR」を読んでみてください。新しい発見や考えが得られると思います。

「SPUR」は部員が一所懸命に書いたものです。是非とも多くの方に、最後まで読んでいただき、部員の熱い想いを感じ取っていただけたら幸いです。

<4年目>

## 第51代会長 諸我 俊

僕たち執行部の代が岩岳の連覇を途切れさせてしまったこと、とても悔しく残念に思います。一年間通して、そのときできる精一杯のことをやってきたつもりでしたが優勝がかなわなかったことがすごく悔しいです。団体優勝も叶わず、本当に悔しい思いをしました。今も思い出すだけで頭を抱えたくになります。

だから次の代の執行部が執念を持って優勝を目指していくとたたきあいの場で宣言してくれたことはとても嬉しかったです。

僕は幸い今年も現役で活動ができるので、現執行部はじめ部員全員で共に優勝を目指して、執念を持って一年間やっていきたいと思っています。

今シーズンは四年生としてエレに関わっていくわけですが、一年間通して、チーム全体のために行動していきたいと思っています。去年もチーム全体のためにと考えて行動していたつもりですが、今年はもっと効率的にチーム全体のためになるように行動できたら良いなと思っています。自分なりに考えて、できるだけ数多く、効率的にチームのために行動することが今年のひとつの目標です。

結果だけを見るととても悔しく反省したくなりますが、一年間振り返ってみると良かったなと思うこともたくさんあります。まず、一年間部長という責任のかかる仕事をやり遂げることができたこと、同期をはじめチームのみんながついてきてくれたことに本当に感謝しています。また、一年間エレに関わってくださったコーチの方々や様々支援してくださったOBOGの方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。

執行部の活動を最後までなんとかやっていけたのはこの同期だったからだと思います。忙しい中でもミーティングは何回もやってきましたが、毎回ミーティングが終わった後は皆テンションが高かったですね、アホみたいに。一年間大変でしたが、楽しかったです。

また、昨シーズンは初めて師匠を経験しました。弟子を持つことはとても楽しかったです。

笠井は持ち前の独特な感性で公式練の間、様々な変な話をしてくれました。どれも面白かったです。結衣ちゃんはいわゆるスキー馬鹿で、怪我をしたとき、師匠がしっかり休めよと言っているにも関わらず十分な休みを取ろうとしませんでした。しかし二人とも素直なので、講習での師匠の長い話もしっかり聞いてくれました。順調に上手くなっていったので非常にやり易かったです。またご飯でも行こう。

自分個人の結果についてですが、こちらは反省点が多いと感じています。満足してよいのは、唯一岩岳でスーパーシードが取れたという結果だけだと思います。しかし岩岳での滑りは決して良いものではありませんでした。毎年のことなのですが、自分の滑りについてシーズンが終わってから重大な反省に気づくことが多いです。自分の滑りを客観的に見る力が足りていないことが原因だと思います。なので、来年はもっと意識して自分の滑りを客観的に見るタイミングを作ることと、色々な人からより多くのコメントをもらうことがテーマだと思います。

最後に、来年の一番大きな目標は岩岳総合優勝・団体優勝です。また道大会では80位以内、岩岳では表彰台を目標にやっていきたいと思っています。

今シーズンやっていきたいことをいくつか書いてきましたが、行動と結果で示していきたいと思います。

---

## 第 51 代副会長 伊藤隼大

### ● 去年の反省

執行部として部を運営する立場となり、一つ一つの行事に沢山の時間を割いてミーティングをしたことで、1, 2 年生の時になんとなくこなしていた行事の一つ一つが、岩岳優勝という目標を成し遂げるためのものなのだと気づきました。シーズン中は、自分が頑張らなければならないという使命感で毎日スキー場に行っていましたが、なかなかうまくならず、たくさん悩みました。練習量を結果に結びつけられなかったのが去年の一番の反省です。

「努力は結果を出すまで頑張ること」

これは自分が一番大切にしていることです。どんなに頑張っても結果を出さなければ意味がなく、途中で諦めてしまったらそこで終わり。結果を出すまで頑張りを続けなければ努力とは言えないと思います。

去年は、自分が上手く滑れない原因や対策を考えずに、消化不良のままスキーに行っていました。今シーズンは自分のできない原因を考え、具体的なイメージトレーニングをした上で、スキーに行こうと思います。少ない時間を効率よく利用していきたいです。

副部長としての反省は、部長のサポートをあまり出来ていなかったことです。俊ばかり頑張ってくれていることに気付いていながら、何をしてあげればいいのか分からず、頼ってしまっていました。自分はみんなをまとめ上げ、引っ張っていくリーダーよりも、陰で支えていく方が自分には合っていると思い、副部長を選びました。部長をやると言ってくれた俊は、執行部としての責任を持ち、誰よりも部のことを考えていく中で、この一年間でとても成長したのだと思います。それに比べて、自分は何も変われなかった気がします。忙しいことを何かのせいにして、逃げてしまっていたのだと思います。勉強もスキーも頑張ると決めたのは自分だということを忘れてしまうと、自分の時間を犠牲にしてまで頑張ったバイトが無駄になってしまう。自分の貴重な時間を割いてスキーをするということを忘れないようにしていきたいです。忙しい中でも、自分が積極的に部の貢献をしていけるように、これからより一層頑張っていきたいです。

去年頑張り切れなかった分、今年の執行部のサポートを頑張りたいと思います。

去年は大会で一つもいい成績が出せなかったなので、今年ことは結果を出します。

### ● 今年目標

- ・どんなに忙しくても言い訳しない
- ・学業、スキー、バイト 全部頑張る
- ・下級生をサポートする

---

## 北野雄大

もう3回目のシュプールを書くことになりました。毎年シュプールを書くたびに時間が経つのが本当早いと思っています。

今年はずいぶん函館に移行してしまいました。無事移行することができました。個人の成績に関することは確か技術論に書いたのでそっち読んでください。

ということで早速今年一年振り返ってみようと思います。

思ったことをそのまま書いたので文章のつながりとかはないです笑 読みにくかったらすみません。

#### ・師匠について

今シーズンは函館支部ながら師匠をやるという英断を下し、ペアで師匠をやりました。

弟子には自分が大切と思っている色々なことを公式練で伝えたつもりですが、説明がわかりにくかったことも多かったと思います。自分の思っていることをうまく言葉にして相手に伝えることの難しさを感じました。師匠をやるということ自体は簡単ですが、実際に弟子の1年間を背負う責任は重いと思いました。どうすれば自分の考えてることをうまく伝えられるか悩むことも多かったです。諸岡はある日突然上手くなりました。浅野は怪我、病気と不運が続きました。岩岳では悔しい結果でしたが、来シーズンはその悔しさをバネに頑張っ

#### ・団体について

昨年に引き続き団体に出ささせていただきました。練習はうまくいかないことも多かったです。特に自分はトップ力のなさに悩んだ時期も多かったです。なんとか形になって挑んだ本番は悔しい結果となりました。結果は悔しいものでしたが、メンバーには本当に感謝してます。最後までついてきてくれて?ありがとうございます。練習は辛かったし、途中、大丈夫かなと思うこともあったけど、それも全部ひっくるめて団体の良さだと僕は思ってます。

本番、滑り出す前は当然緊張もありましたがそれ以上に今までの練習とか色々こみ上げてきてなんでもできそうな気分でした。

まあミスったんですけどね 笑…止まる時はしっかり止まりましょう。

#### ・函館支部について

今年は3人体勢で迎えました。前支部長を見習って札幌の活動に参加しまくるぞと意気込んでいました…やりすぎました。

嘘です。悔いはありません。意味不明な強行日程を組んだことも何かの瀬戸際に立った時もありましたが後悔はありません。それにしても3人いて本当に良かったと思います。ほぼ同等の日程を一人でこなした前支部長には本当に頭が上がりにません。成田と夏樹には本当に感謝しています。アホみたいな日程とプランに呆れながらもついてきてくれてありがとうございます。キチガイと言われそうですが…楽しかったです。ラインを見返すと移行直後は恐らくまだまともでした。いつからネジが外れたんでしょうか、途中からみんなアホになりました 笑 あと、後輩にはプレッシャーかけて本当にすみません!!

#### ・執行部について

今年はずいぶん執行部になりました…と思ったら函館に飛ばされました。その関係上役職もなくミーティングにもあまり参加できませんでした。執行部としての自分の立ち位置には結構悩んでました。曖昧な立場ということもあり、参加するだけで満足していた部分は正直ありました。参加するだけでなくもっと部を引っ張っていく意識を持つべきだった感じます。これに関しては自分の意識次第で札幌のみんなの負担をもっと減らせたと思います。札幌に戻った時はミーティングに参加はしていましたが全然発言できませんでした。ついていけなかったです。本当に申し訳なく思います。個人としてはもっとできることやるべきことがありました。

そんな中でも同期は人数も少ない中、本当によくやってくれたと思います。執行部の運営に関しては尊敬と感謝の気持ちしかありません。

#### ・全体を通して

今シーズンはどんな形であれどんな結果であれやりきったシーズンだったと思います。来シーズンはスキーに今までほど力を入れられないかもしれませんが、選手はやる予定です。選手として大会に出る以上、言い訳は

一切きかないので少ない時間を効率よく使っていきたいです。

今年を通して、考え方、精神面、技術面で反省点や改善点はたくさんあるのでこれからに活かしていきます。文章結局長くなっちゃいました。すみません。

---

## 椎名彩

私にとってはすごく長い1年だった。1,2年生の頃はただスキーが楽しくて、エレにいるのが楽しくて活動していた。しかし、今年は執行部ということでのほほんとしている訳にはいかず、つらいことも多かった。執行部に加えて資格試験の勉強の忙しさもあって、オフシーズンにはやめようかとも思っていた。ここまでやりきったのは、責任感ゆえだった。

特に、シーズンに入ってから、弟子の存在が大きかったと思う。私の師匠の「1年生の師匠の役割は、スキーに対する姿勢を見せて弟子のモチベーションになること。」という言葉が印象に残っており、私もこれだけは意識していた。それが弟子に伝わったのか、二人ともすごく頑張っていたと思う。私自身がつらいときに、二人を見ていて元気をもらえたことも多かった。公式練も楽しかった。本当にありがとう！

自身のスキーに関しては、苦手だった小回りはやっとな変化があったが、大回りで伸び悩み、大会でいい結果は得られなかった。いくらやっても良くならなかった内足だが、死ぬまでにはどうにかしたいと思う(笑)

団体は今年も出させてもらったが、正直に言うとやはり好きになれない…。しかし、今年は昨年同様 A チの3番で規定・自由共にポジションが変わらなかったの少しは気が楽だった。にもかかわらず、特に岩岳入りしてから、合わせられないことが多くて申し訳なかったと思う。一番の心残りは、結果よりも、春奈と一緒に本番を滑れなかったこと。春奈とは特に励まし合うことが多くて、悩みに悩みながら練習して迎えた岩岳だったので、その成果を一緒に出せなかったことが何よりも悔しかった。そんなピンチの中、個人戦だけでなく、団体戦でも助けてくださった花さんには感謝してもしきれない。やはり優勝はしたかったが、なんとか3位に食らいつけたのはよかったと思っておきたい。

1年目、2年目と結果が全てだと思ってやってきたが、3年間を終えると意外とそうでもない気がした。やっぱり一喜一憂してしまうけれど、1年目から伸びる人、2年目から伸びる人いろいろいるし、苦い思いをしながらもひたむきに頑張っている人もいる。スポーツだから、競技だから、優劣がつくものではあるし、優勝を目指してやっている訳だから結果にこだわらなければならないのも事実だけれど、それだけにはなりたくないし、なってほしくないと思う。そう考えるようになったのは、うまくいなくて悩んでいるときに、必ず見ている誰かがいたからだと思う。がんばっていれば、必ず誰かが見てくれていて、その熱意が報われるようにと助言をしてくれる、応援してくれる、励ましてくれる。そこがエレのいいところだと思う。

なんだかんだ難しいことだとは思いますが、スキーを、エレを楽しんでほしい。後輩に伝えたいのはそれだけである。

さて、今年の目標は…12月の公認会計士短答式試験合格と卒論提出。スキーしすぎたせいで専門学校のカリキュラムから相当遅れているので、必死に勉強するしかない。もし12月に受ければ、1月から時々顔を出せるようになると思うので、できる限りサポートしていけたらと思っている。直接力になれなくて申し訳ない。

最後に、多くの人たちに支えられてここまでやってこられたと思う。本当にありがとうございました。

---

## 榊原亜子

エレガントスキー部での活動も遂に4年目。昨年は3年間の中でも一番充実し成長できた1年だったと思います。執行部や学連役員としては不甲斐無い自分でしたが、最後まで一緒に活動してくれた同期には感謝してもしきれません。また、指導をしてくださったコーチの方々、先輩方本当にありがとうございました。

昨年、私が技術的なこと以外に目標にしていたのは、“スキーを純粹に楽しむ”と“エレ以外の人とも交流をする”でした。

2年生の時は、大会への焦りからスキーを楽しめなくなってしまい、メンタル的にボロボロで中身のないシーズンとなってしまっていました。そこで昨年は、“スキーを楽しむ”ことに重点を置き練習に集中してみたら、心に余裕ができ結果的にうまくいきました。また、エレ以外の人と一緒に滑ったり、交流することで、彼らに“スキーを楽しむ”ことを思い出させてもらっていたと思います。

技術的な面で大きかったことは、師匠をやらせてもらったことと道大会に“奇跡的に”出場できたことです。師匠については、ペア師匠の成田のサポートもあり、基礎から徹底的に考え直すことと、自分の滑りをしっかりと分析することができました。弟子が1人途中で怪我をしてしまったのは本当に残念でしたが、弟子と一緒に滑ったり、弟子の成長を実感したりととても楽しかったです。一緒に滑ってくれてありがとう！

道大会については、札予で1つ上の順位の人と30点も差がある中、奇跡的に突破できました。1点でも多く取ることが大切だと実感しました。自分は本来道大会への切符が許させる実力ではありませんでしたが、ハイレベルな大会に挑戦できたことで吸収することができるものがたくさんありました。特に急斜小回りなど最後まで歯が立ちませんでした、それでも必死に練習したことは技術面、メンタル面、両方での成長に繋がりました。大会結果は惨敗だったので、再びチャレンジしたいと思っています。

最期に今年は、学業優先のため現役辞退を選択させて頂きました。近年、部員数の増加が著しくこれまでのエレとはまた違った団体としての在り方、運営が求められるようになっていくと思います。私が言うのもおこがましいですが、部員に対して柔軟に考えられる部活になればと願っています。

---

## 白鳥宏太

とりあえず、今シーズンをざっくり振り返ってみると、1番に言えることは、何も結果として残せなかったな、と。札予もダメ。岩岳の個人も団体も総合もダメ。朝里もダメ。今更だけど、自分の中で狙っていたところが甘すぎたのかなと感じた。3月の終わりに同期でミーティングしたときに、成田が言っていたのが、札幌にいて毎日のようにスキーができる環境にあったのに全く滑りも変わらないし、成長度が小さくて、何しているんだと。もちろん同期全体に対して言っていたと思うけど、あれは自分にとって果てしなく凶星だった。今シーズン、執行部として大変になることもあってか、少し楽をしようとしてしまった気がする。去年があまりにも精神的に追い込んだシーズンだったから、少しくらいはスキーを楽しんであまり深くは考え込まないようにしていた。確かに、3年間で1番スキーは楽しく感じたと思う。ただ、振り返るとこれはやっぱり自分には合っていなかったのかなと強く感じた。来年はもう一回、気持ち的にも追い込んでみようかなと思う。

去年のオフシーズンからもう一度振り返ると、まず1番にはトレ部をやったこと。役職決めの段階までトレ部をやるとは全く思っていなくて、執行部男子の少なさの影響からトレ部が回ってきた。最初はほんと、イメ

ージもわからなかったし、いろいろと変えよう！とか考えはしたけど、何から何まで手探り状態の感じになってしまって、何回も方針転換してしまった。4月5月はほぼずっとトレ部のことを考えていてかなりしんどかった。トレ合宿が終わったあたりからは少し慣れが出てきたのもあってオフシーズンを乗り切れた感はある。ただ、慣れが邪魔をした部分もあったり、(雨も邪魔してきたけど) もう少しやれたかなあと今は少し思う。ただ、まあトレ部は1人では絶対に回らなくて、オフシーズンを通してぼすが班組み、班分け、ペアを決めてくれていたのは本当に助かった。何度も何度もその班分けに文句付けて困らせちゃったと思うけど、それでも仕事をこなしてくれて、素直にありがとうと言いたい。(たぶん言わないけど)

シーズンに入ってから正直あつという間だった。シーズン初めからももちろん焦ってはいたけれど、あまり焦り過ぎないようにだとか、余裕を持ってやろうだとか思いながら過ごした。冒頭にも書いたけど、大会の結果もこういう形になって、やり切った感というものがほとんどない。シーズンがあつという間に過ぎたように、大会の本番はもっとあつという間に過ぎていた。自分の考えていた結果にはまったくと言っていいほど届かなかったし、心底情けないという感じ。本番には強いという自負があったはずなんだけど、この1年で根こそぎその自信は消えたと、今は本番に対して恐怖の気持ちしかない。去年の目標に書いたことがほとんど達成できないし、1年間何やってたのさ、という気持ちでいる。

来シーズンに向けてやっていくわけだけど、まず1番に考えなくてはいけないことは、岩岳を目標にできるということ。今年の4年生は半分も岩岳に出られない状況だし、このことを本当に重く受け止めておかなくちゃいけない。出る側の責任は大きい。今年みたいな成績は絶対に取れない。これから厳しいのはわかっているけれど、覚悟を持ってシーズンインを向かえられるようにする。

何か伝えられるようなことが全然なくて、1年間の感想を書くだけになってしまいすみません。ここまで3年間、先輩、同期、後輩問わず、たくさん迷惑もかけながらも、本当に多くの楽しい時間をくれてありがとうございました。もう1年だけよろしくお願いします。

来年の目標

道予選出場、決勝進出

クラブシード A をとって岩岳50位以内

岩岳総合優勝

---

### 高田悠太朗

今シーズン課題は多く見つけましたが、それをうまく修正することが出来ずに終わったような気がします。シーズンを通して色々試していたこともあり、気づけば何をすればいいのかわからなくなり、動きの組み立てがちぐはぐになってしまいました。昨シーズンに比べて、足首のホールドと内足の処理の仕方はよくなった気がしますが、後は余計なことや、よくわからないことが多かったです。来シーズンは今シーズンの課題点を一つ一つ整理して修正していけばまだ伸びると思います。コブは無理せずもっと楽に、整地は自然な動きが出来るようにポジショニングをもっと考えます。フリーはもっと遊び心を持って斜面全体を使えるような演技を目指します。来シーズンは全種目86をコンスタントにとれるようにしたいです。

「総合優勝を逃してしまいました」という悲観的な spur があふれていることが予想されるので、僕はできる限り前向きなコメントをしたいと思います。



総合優勝していることが当たり前すぎて最近つまらなかったのも丁度いい相手が出来てよかったですね？今後の学生基礎スキーの発展が楽しみです。今度はこっちが挑戦者の立場になって、もう一度わからせてあげましょう。多分次優勝した時の打ち上げは連覇している時より楽しいと思います。下級生が切磋琢磨して技術を底上げしてくれることを楽しみにしています。

あとスキーを教えることは難しいと思いました。他人の気持ちまで僕はよくわかりません。運悪くテキトーな師匠にあたってしまった弟子には申し訳ないです。とても良く頑張っていました。いろんな方から師匠からあまりコメントしてもらえないと嘆いているとお聞きしました。一つ言わせてください。3人とも滑りのクセがすごい。

団体は僕の構成ミスです。今度こそ良い構成を作って優勝してください。今度はずっと細かいところまで詰めてもいいと思います。

最後に多くは語りませんが、部員には色々面倒をかけました。支えてくれてありがとうございました。

---

## 中寄亜衣子

まず初めに、昨年度ご指導ご協力してくださったコーチの方々、先輩方、応援してくださった皆様に御礼申し上げます。そして、執行部として岩岳男女総合優勝という目標達成に導けなかったこと、連覇にピリオドを打ってしまったこと、大変申し訳ございませんでした。

昨年度は同じ時期にスキーを始めた同期たちが弟子を持ち、公式練において立派に師匠をこなしている中、自分は毎回教わる側でした。そのことが決まった時、私は正直言うとすごく同期に対して引け目を感じてしまっていました。だから今年は上手になりたいなんて思っているはいけない、上手くなるのは自分の義務だ、と思うようになりました。そんな風な言い方をすると、「スキーを楽しむ」ということからかけ離れているように聞こえますよね、実際辛いことのほうが多かったのは事実だと思います。ですが、昨シーズンはすごくやり甲斐を感じていて、とても充実していました。ありがたいことに昨年はチームに入る機会をいただき、チーム練においても大変有意義な時間を過ごせました。毎日10時間近く滑っていた二月の藻岩でもスキーが嫌になることはなく、精神的にも技術的にも過去三年で一番成長できたのではないかと思います。

だからこそ今年の岩岳は本当に悔しかった。過去二年結果を残せてない身として、役職や師弟制度で優遇されている身として、何とか結果を出さなければという焦りはありました。それは選考会后、特に学校が春休みに入ってから練習へのモチベーションにつながり、実際その時期は誰にも負けなくらい練習をしたと自負していました。でも、結果は自分が思っているようには出ませんでした。たくさん練習したと思っていたのにいざ本番になると自信をもって滑ることができなかった、これが私の失敗の原因であり、自信がつけられないことは何より実力が足りなかったからだと思います。

昨年度は1年を通して執行部として今までの何倍もエレのことを考えてきました。エレにかける時間が長いからこそ思い入れも強くなっていき、先輩方の偉大さを改めて実感し、後輩が楽しそうな姿を見て自分まで元気をもらい、そして何よりも同期と過ごす時間を大切に思うようになりました。同期に対しては感謝してもしきれません。皆で悩み、笑いあって作り上げていった1年間の最後が涙で終わってしまったことが本当に悔しいです。しかし、昨年的一年間が良い意味でも私にとって忘れられない一年になることは間違いのないと思います。

今年、ついに最高学年の4年生になりました。今まで自分はあまりエレに貢献できていません。それなのに他の人からそれはもう1年では返せないくらいたくさんの恩をいただきました。だからこそ今年は結

果を残すということだけではなく、様々な面で自分にできることを考え、今までお世話になった分の恩を返したいです。そして同時に、後輩たちにとってこれから過ごすエレでの時間が私がそうであったように、かけがえのないものになることを願いたいと思います。

---

## 中村結衣

お疲れ様です、4年目の中村です。と書くことにまだ違和感を覚える今日この頃ですが、ついに4年目になってしまいました。SPURを書く時期になるといつも思うのですが、この1年間も本当にあっという間でした。それでは、昨年度について振り返っていきたいと思います。

まず、昨年度は執行部としての1年間ということで、これまでとは全く違う立場でエレに関わることになりました。一つ一つの行事において考えることが山ほどあって、今までぼーっと行事に参加してきたけれども、運営する側というのは本当に大変であるということが実感されました。しっかり準備して確認したつもりでも、抜けていたことがあったり、予定外のアクシデント（主に天候）によって大幅に予定が変わったりと、様々なことがありました。私たちの代は、私も含めて周りが見えなくなるタイプが多く、勢いで突っ走ってしまっていた気がするので、なんとか1年間を終えられたのは、いろいろと助言を頂いた先輩方、ついてきてくれた後輩たちのおかげだと思います。ありがとうございました。また、ミーティングの際には、たびたびスリープモードに入ってしまったたり、椅子が暴れだしたりして申し訳ありませんでした。あたたかく見守ってくれた同期のみんなには感謝感謝の気持ちです。

次にスキーについてです。正直今年はずまくなった感覚が全く無く、退化したのではないかと思うくらいの1年間でした。1月から研究室に配属され、1月2月とスキーだけに全てを注ぎ込むことはできませんでした。今まで、ひたすら滑ることにより自分の滑りを確立してきた自分にとって十分に滑れないということは、自分の滑りに迷いが生じる原因になりました。そんな中で迎えた岩岳ですが、個人戦でも団体戦でもひたすら申し訳なかったという気持ちで今までで一番泣いた岩岳になりました。特に団体では、経験者にもかかわらず、去年と同じところをつまずいて、自分のことでいっぱいばいばいで、未経験者の2人を引っ張っていくこともできなくて、本当にくそでした。亜子には悩み事を増やしてしまっでごめんなさい。ずっと悩んでたけど、亜子はいいトップだったと思うよ。

最後に弟子についてです。最初はペアで師弟をすることが濃厚だったので油断していたのですが、師弟発表1週間前くらいに単独で持つということになって、急にプレッシャーと責任が増しました。基本的に適当な性格なので、弟子の2人には迷惑をかけたかもしれませんが、ついてきてくれてありがとう。私的には、師弟トレや公式練は楽しくやらせてもらったので、2人も楽しんでくれたなら幸いです。

さて、今年度も現役という選択肢を選んでしまったので、なかなか大変な日々が待っていると思いますが、まあなんとかなるかーという精神でやっていこうと思います。また、4年目なのであまりはしゃぎすぎないように、できる限り後輩たちの力になりたいと思っているのでよろしくお願いします。

---

## 成田太樹

皆さんこんにちは。4年目の成田です。

本年度もシュプールを書く時期を部員として迎えることができました。これもコーチの皆様、諸先輩方、同期、後輩をはじめとしたエレにかかわっていただいたすべての皆様のお力添えがあってこそです。本当にありがとうございました。

さて、今シーズンは本当に、ほんとうに、大変でした。まさか3月まで進級が決まらないとは思いませんでした。この激動の半年間でのなりの成長した点を記すことで私の SPUR とさせていただきます。

その1。「頭がよくなった」

マジです。基礎スキーをやると頭がよくなります。多分。身体能力が劣っている人ほど特に。悲しいことに前部長のように体が動かないため、ひたすら考えなきゃ勝てないです。おかげでこの半年間で思考力が向上したと思います。

その2。「僕はもしかしたら変な人なのかもしれない…と気づいた」

今更ですが（笑）周り自分と全然違いすぎることに気づきました。気持ちの面でも考え方の面でもお腹の出っ張り具合も。基礎スキーやったおかげで就活の自己分析が進んだ気がします。就活やめたので無駄になるかもしれないですが。

その3。「ストレス耐性があがった」

いろいろありました。はい。多分社会人の諸先輩方には鼻で笑われるかと思います。

どうしようもないのでこの辺で失礼いたします。

今までお世話になりました。旅に出ます。

---

## 野口靖代

やっと終わったという印象がこのシーズンの感想です。執行部がすごくすごくすごく大変でした笑。仕事量も多かったけれど、理不尽なこともたくさんあって、今思い返せばいい思い出！なんて絶対に思わないけれど、本当に密度の濃い一年だったなと思います。

今シーズンの目標は、個人戦で一位とって、道予にでて、SCをとることでした。真ん中の二つ以外は無事達成できたので、頑張ってきてよかったなと思います。今シーズンは、レベルの高い人と滑る機会が多かった一年でした。特に、A+だったり、フィッシャーチームの人と滑ると、とりあえず自分が一番下っ端で、くらいついていかないと何にも得られないので、必死でした。でもチームの人が本当に優しくいい人達ばかりだったので、楽しかったです。あと、後輩が本当にいい子たちばかりで、一生懸命聞いてくる一年生や、後輩の指導を頑張っていたり、黙々と練習する二年生をみて、いい子たちだなーと思っていました。後輩といえば、初めての弟子が二人できました。本当に、突拍子もないびっくりするくらいキャラが濃い二人で大変でした。でも、公式練は毎回楽しくて、少しずつうまくなってるのが嬉しかったですね。岩岳の総滑を降りてきたときは泣いちゃいましたね。おいしい焼肉に連れて行ってあげたいと思います。そして、先輩にはいろいろ愚痴を聞いてもらいました。とくにチームが一緒だった方々に本当に本当にお世話になりました、ありがとうございました。

そして、同期はもう書ききれないぐらい、お世話になりました。文句もたくさんあったけど、きっと同じくらい私に文句あったらろうし、たくさんぶつかりもしたし、一緒に悩んだりもしたし、一番苦勞を共にした素敵な仲間です。ありがとう。

4年になって、思ったことは、私はエレという組織がそんな好きじゃないけど、エレの人は大好きだし、スキーも大好きだから続けてこれたんだなと思います。エレは厳しいし理不尽なところたくさん見てきた

し、自由な時間少ないし、スキーはお金かかるし、すごく大変だなという感想だけれど、スキーは本当に楽しくて、毎日滑っても何時間滑っても足りないくらい楽しくて、そして同期も先輩も後輩にも恵まれたなと思います。こんなめりこめるスキーに出会わせてくれて、いい仲間に出合わせてくれたエレにそこだけは感謝しなくちゃいけないなと思います。

---

## 平山 夏樹

今シーズンはたくさんの新しいというか、無茶でデンジャラスな？経験ができたシーズンでした。春から札幌に通いまくった僕たち函館支部は、結局シーズンオフまで札幌に通い詰めました。

函館に移行してまず感じたのは、当たり前ですがエレの行事がないことでした。今までの2年間、エレがかなり占めていたんだなと感じました。月曜も水曜も土曜もトレはありません。一気に運動不足になりました。スキーが少し離れていく感じがしました。そんなことで僕たちは、自分たちから能動的にエレを求めて札幌へ通ったのかなと思います。ただ札幌―函館間がもうちょっと近ければなあ笑。

シーズンに入ると、公式錬全参加、師匠もさせていただきました。春奈、玄にはたくさん迷惑かけたかと思えます。不甲斐ない自分で申し訳なかったですが、一緒にワンシーズン頑張ってくれてありがとう。これからも応援しています。また、今年は道大会に出させていただきました。結果は下から数えてすぐの順位で悲しかったですが、チームや連盟など、学生以外の基礎スキー界のたくさんの方々に新たに出会うことができ、また大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

選考会・藻岩練を経て、岩岳では今年もサポートとなりましたが、自由演技が終わったときには3年間で初めて本気で泣きました。いろいろな思いが心からこみ上げました。とてもとても悔しかったです。来年は必ず優勝できるよう、微力ですができる限りのサポートをしていきたいと思えます。

来シーズンは研究室や勉強で、なかなかスキーをできない日も多くなるかとは思いますが、一日一日を大切に滑っていきたくと思えます。自分は本当に下手くそですが、やっぱりスキーが大好きだからここまで続けてこられたんだと思えます。これからもスキーを楽しんでいきたくと思えます。

最後に、今シーズン教えていただいたコーチの皆様・先輩方、大河内さん・雄大をはじめたくさん運転してくださったカーオーナーの方々、長い間泊めてくれた白鳥・隼大、他にもお世話になったすべての皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。

---

## 吉羽輝咲

ただただエレが楽しかった1・2年とは違って、昨年度は執行部として本当に中身の濃い時間を過ごしました。皆さん、特に同期はご存知の通り、約20年間な一人も考えずに生きてきた自分はあまりうまく意見を言えるほうではなく発言力も皆無です。だから最初執行部が始まった時は、話し合いはみんなに任せて、正直自分は何も考えなくてもいいやと思っていました。それからちょっと経つと話し合った内容をあまり聞かないようになりました。そのため、たまに話を聞いて、疑問に思ったところや意見を話すと「それさっき話したわ！」と口をそろえて何度も言われました。更に悪いことに、自分がなぜか話を聞いていない自覚がなく、みんなにそういわれることに対してイライラして、みんなから集中攻撃を受けている気がしてひとりでふさぎこんでいま

した。今思えばほんとに馬鹿馬鹿しくて意味の分からない話ですね。シーズン前くらいになってやっと考えなきゃいけないんだなって自覚が芽生えてきました。ただ人の意見をあまり聞こうとしなかったのも、自分がやろうとしていることに対して意見されると、なんで私が頑張ってるかに対して口出すのと思ひ苛立ちました。こんな態度を取っている時期がしばらく続いて、ある人に怒られてしまったんですけどね。怒られて初めて、なんでみんなで考えた方がいいに決まっているのに意味の分からない意地張ってるんだらうと思ひました。1年通してみんなに本当に迷惑かけたと思ひます。本当にごめんなさい。途中で気づいてこれでも周りに目を向けてまあくなくなるように頑張ったので許してくれるとうれしいです(\*'w'\*)なんだかんだ色々あつて人間として大きく成長できたと思ひるので、執行部を経験出来て本当によかつたと思ひから感じています。スキーに関していうと、人から色々話を聞いてやっていくにつれて、自分にはスキーに関する知識が足りなすぎることに気づきました。「こう動いたらいいんだよ」ではなく「こう動いたらこういう動きが出来からいいんだよ」という風に理論的に説明できるようにならなければならないと思ひました。それからただ受け身になって教えられるだけでなく自分なりに納得するまで聞いて考えてスキーをやろうと思ひました。また今年も師匠をしました。そもそも人に教えること自体やったことがなく、正直とても不安でした。雄大がいなければ今頃浅野と諸岡はどうなつていたんでしょ。想像すると本当に怖いんですね。2人とも本当に上手くなつたと思ひます。公式練前に Dropbox に上がったオーンズでの2人の動画を見て、毎週雄大と2人で「まじか上手くなつたな」って驚いてました。ほんとだよ。ほんとに頑張つたと思ひます。来シーズンはもっと自信もつてやってください。お互い頑張ろうね。師匠をやって自分も考えることが出来て、教える事って大事なんだなと思ひました。最初こそ自信がなかつたものの、今は師匠は絶対にやるべきだなという考えに転じています。最後になりますが、一年間支えてくださったエレの方々、コーチの方々、本当にありがとうございました。年明けに怪我して昨シーズンは超未消化状態で終わったので、今シーズンは4年生ではありますが時間の許す限り精一杯考えて滑りたいと思ひます。ある方には来年はスーシーだなど、またある方にはコブ 260 だなどというように言われました。現役辞退していく同期の分も頑張りますのでご指導のほどよろしくお願ひいたします。

---

<3年目>

### 第52代会長 中村凌太郎

今年度も多くのコーチの方々、先輩方にスキーを教えていただけたことに感謝申し上げます。来年度以降もよろしくお願ひ申し上げます。SPUR であるので、今年度を最初から振り返りたいと思ひます。

まず今年度の初めは、1年間が終わり、様々な反省とともに改めて自分は何がしたいのか、この大学生活で成長をするために果たしてエレガントスキー部でいいのか、考え始めました。正直、1年生のとき何もうまくいかず、つらい時間の方が多かつた。そして、学年が上がり、学業に対して真剣に多くの時間を費やしたいと思ひるようにもなつた。ただ、もう一度向き合えば見えてくることもあるかもと思ひ、自由参加のトレーニングやしばきあいにも積極的に参加した。

そこで見えてきたのは、やっぱり先輩方はすごいなということ。スキーに対する思い、技術的な細かいことなど、改めて尊敬できる方が多くいる部活であることが理解できた。それと同時に、私は同じように強い思いと信念をもってやっていけるのか、来年から前に立ってやっていくが自分にできるだらうか、とかなり不安も

大きくなった。

そんな不安をかかえているとき、大学の部活で部長をしている、高校の同期と会って話をした。人の前に立って組織を動かすような人間ではなかった彼が「つらいけど楽しいよ」といったとき、自分の中で大きく考えが変化した。周りにとらわれすぎていた自分に気づくことができ、自然と自分が“来年度部長としてどのようにやっていけばいいか”を考えていました。こんなあっさり考えが変わった自分に“アホだな”と思いましたが、周りがどうこうではなく、自分自身が周りを変えていく存在になる必要があると思うようになり、真剣に、スキーに、エレガントスキー部という組織に、向き合おうと決めました。

ただ、オフシーズンをうまく過ごせず、時間もかなり経過していたため、うまくシーズンに入ることがかなわなかったが、それでもシーズンやっていく中でスキーの成長は感じる事ができていた。しかし、その中でも成長を否定されるようなこともあったりし、1月頃の大会や選考会では自分の滑りというものがわからなくなってしまった。結局オフの遅れや成長の停滞が自分の求めていた結果につながる事がなくなってしまった。

悔しさはあったものの、かなり早めに、来年につなげられるように今から“再出発”を決意できた。岩岳に選手として出場できなくても、選手であるひとに対して私ができることがある、来年度以降につながる期間にできると思い、頑張っていこう！と考えていた矢先、

ケガをしました。

その結果、2月はほとんど練習ができず家でリハビリして終わってしまいました。ただ、急にできた時間で来年やりたいこと、部長としての覚悟ができたのでよかったかなと思いました。さらに、陸上トレーニングをリハビリと同時にできたことも朝里大会にいい影響を与えることができた。

そして、岩岳のリザルトを見たときに初めて本気で悔しいと感じました。去年の自分のリザルトよりも、朝里大会でうまくいかなかったときよりも。頑張って戦ったみんなを想像したとき、自分が一緒にいれなかった不甲斐なさや来年は絶対に優勝したいと強く思いました。

2017-2018 はいろんな悩みとともによくも悪くも自分を人間として成長できた年になった。来年は自分としてもエレガントスキー部としても再出発するいい機会だと思うので、日々大事にしながら、“勝利への執念”を持ってスキーヤーとして成長できるように努めていきたいと思う。

---

## 赤岩 愛記

覚悟の2年後期。このフレーズを常に頭の片隅に置き続けたシーズンでした。

「来シーズンの目標は岩岳団体戦出場」と叫んだ去年の Spur……。団体戦か一笑、でもせめて個人戦選手にはなりたい！岩岳大会にどうしてもでたい！シーズン始まる直前に Spur を読み返し心の中でそう誓った目標でした。いままでお世話になった板を家のインテリアの一部と化し、板を乗り換えて新たにチームにも入り

ました。

1年生の頃より圧倒的に時間がないのは分かっていました。そして同期たちと比べて今の自分の位置では到底選手になれないことも分かっていました。……そのことを痛いほど分かっていたからこそ、5限後札幌ダッシュしたり(銭函で宮の沢5便にギリ追い付きます)、スキー行き過ぎて毎公式練後に完全徹夜するはめになってしまったり……(レポートが毎週月曜提出でした。溜めたら徹夜せざるを得なくなるってわかってたんですけどね。)、今考えるとすごい頭悪いことしてました。

でもゲレンデに顔を出したからといってそう簡単にうまくなるわけではなく。教えて下さる先輩方に何度も同じ事を言われ続け、まわりの同期がどんどんうまくなっていってると感じ、それで焦り、それでも技術は全く上達せず、それでもうスキーが嫌になり、おかげでただでさえやってない勉強レポートもやばくなり、、12月は焦って焦ってばかりでした。自分の目の前にあるものしか見えず、誰が選考会に通るそうだとか、いま自分はどの辺にいそうだとか、無駄な思考ばかり巡らせてました。いやその無駄な時間でスキーの動画見たり少しでも課題したりしてろや!って当時の自分でも気づいていたんですがね。。「振り返れば2月の藻岩シーズンよりも大変な12月でした〜って言うてんだろーな」と当時(12月)の自分は思っていました(フラグ)。

そんな12月、自分を救ってくれた言葉がありました。成長を感じられずもはやスキー場に行くだけ無駄では、と思い始め心が折れそうだった自分におみがかけてくれたこの一言。「スキー板に乗っただけで大きな意味があると思ってる」(原文まま)。つまり、「スキー板に乗った」ことがその日の一番の収穫だ、ってことだと思うんですね(あれ、合ってるよね??)。((今思うとよくわかんなかったりもしますが笑、))でも当時の自分にはすごく響き、12月すごいペースでスキー場に行くことのできた原動力になり、そしてこれまたシーズン中常に頭の片隅に残り続けた言葉でした。

新年が明け、選考会の前に札幌予選がありました。道予出場は目標にしていなかったのだからかなりリラックスして臨んだ大会でした。自分の位置がこれで明確に分かる、純粹に気になる、早く教えてくれ、そんな気持ちだったなあと懐かしく感じます。

そして選考会。緊張しました。札予でなかなか良い成績をとり、これはわんちゃんあると感じたから余計でした。15位に入れた時はさすがに泣いてしまいました。当時の嬉しさは今でも鮮明に覚えています。でもそれは同時に、自分なんか選手になっていいのだろうか、という疑問がずっと頭の中に残り消えることはありませんでした。責任感、というよりも恐怖心、という表現の方が的を射ているような気がします。苦手だった小回りやこぶはまわりの同期よりも下手で一緒に滑るのも怖いと感じる程でした。選考会落ちたら期末に専念できると思って勉強を後回しにしていた12月の自分に膝下青天タックルでフルボッコにしたい衝動に何度駆られたことか。(選考会通るために12月やってきてたのに勉強は選考会後にやればいって発想矛盾してない??とかいうツッコミは受け付けてません)

期末を乗り越え2月の藻岩シーズン。結局GPAは学部平均をなかなか上回り、それはそれで良かったのですがそれはつまりそれだけスキーに行かなかったということを意味しているわけで。藻岩のあのバーンと岩岳へのプレッシャーとも相まって全然自分の思うように滑れずもう焦りに焦りを重ね分けわかんなくなりました。とりあえず朝一藻岩にぶち込んで頂いて滑走時間を稼ぎ、(でも朝一藻岩はなかなか充実したもので、大変有意義な時間でした!)でもさすがに体力は持たず、団体裏の時間までの集中力はほぼ残っておらず。他にもいろいろあった気がしますが、なぜか記憶がありません。藻岩??どこそこ。シーズン券は最終日に破り捨てました(良い意味で)。

岩岳大会、緊張しました。選考会よりはるかに緊張しました。「やー岩岳だーやべーちよーたのしー」って唱え続けてたんですが逆効果だったかな??……ともかく。結果は最悪なものでした。悔しい、というよりもチームとチームメイトへの申し訳なさでいっぱいでした。……このシーズン中ホントにスキーに全力を注いできたのか。岩岳選手に選ばれて、その自覚はホントにあったのか。岩岳で良い成績をとろうとする努力をして

きたのか。チームの優勝に少しでも貢献しようと努力をしたのか。あれがホントに全力の努力だったのか。もっとできたはずだろ。……11月、いや、オフの5月からの行動すべてを省みて、自分がいかに何もしてこなかったかに気づかされました。結果論だとかいう人がいますが、結果がすべてだと思っています。良い結果ができれば頑張ったねということになりますし、結果が振るわなかったら頑張りが足りなかったということになります。本番に弱いタイプ(であることは確かですが)なら本番に強くなる努力をすべきであったと思いますし、この岩岳大会に限っては仮に自分の120%の滑りが出せてたとしても結果は変わらなかったことでしょう。……いずれにせよ、特に同期と合わす顔がなく、飲み会ではご迷惑をおかけしました。しっかりと反省、そして分析して、この経験は良い意味でちゃんと引きずっていきたいと思います。岩岳に出れたことだけでも本当に素晴らしい経験でした。これを来年フルに活かせるようにしないとイケませんね。

そしてまだ岩岳を引きずりながらの朝里大会。何のプレッシャーもなくひとりで気軽にやったらばかすか点出てびっくりしました(特に小回り!)。満足のいく滑りとはほど遠い滑りをしていましたが、点数には満足でした(基準が227だからだろとか言わない!)

長くなりました。今シーズンを振り返って来シーズンどうしていくかを考えます。具体的な目標は、1、岩岳団体戦出場、2、岩岳決勝進出の2つのみです。……2年の時は、1年の時よりも圧倒的に時間がないだろうと感じ、現にそうでした。3年になった今、研究室も始まって2年の時よりもさらに圧倒的に時間がないと感じるはずです。同期、特に岩岳に出れなかった3年は必死に選考会を通ろうと努力するはずですし、2年生の追い上げもすごいはず。すごい危機感を感じています。このままだと選考会に十分落ち得ますし、選考会に通ることは十分目標になります。何より12月のモチベがすごい。ということで1つめは岩岳選手になること、そして団体メンバーに入って去年のリベンジを果たします。……そのためには滑走日数の確保と密度の濃い1本1本が必要です。なんとかして平日にスキー場へ行けるよう最大限の努力をし、またスキーに行けなかった日は行けなかったなりに「予習復習」をしてイメージを膨らましておき、次スキー場に行った日の1本1本が濃いものとなるようにしていきます。……それでもし岩岳選手になれたとしたら、決勝進出を目標にやっていきたいと思います(完全に今シーズンのリベンジというわけですが)。今シーズンの反省として、期末直前期にほとんどスキーに行かなかったことがありました。「スキーと期末、どっちが大事なの??」と聞かれると返答に困るわけなのですが、、今シーズンは「期末やべえ」と連呼しながら「いまは期末です」としか答えられない状況になってしまっていました。「スキーも期末もどっちも大事!」という状況を今シーズンはちゃんと作り出し12月1月は勉強面も頑張ろうと思います。

長くなってごめんなさい。最後に、今シーズンここまでスキーに打ち込めたのは、先輩方そして同期、特に師匠のみつつさん、兄弟弟子のオオトモ、かっちゃんのおかげだと思っています。苦しい時は確かにあったけれど、総じて楽しくスキーができたのはこのお3方のおかげです。また、特に2月以降は、前師匠の花さんにさまざまな場所でたくさん励まされました。本当にありがとうございました。来年も頑張ります!!

3年は悟りの年。昨年と同じ反省を来年のSpurに書くことのないよう、目標に向かってただひたすらに無心で努力するのみ。

---

## 浅尾真結子

やっとシーズンが終わった。今シーズンはとっても長かったように思う。

1年目のスキーは中途半端に終わってしまって、去年のオフトレは全然身が入っていなかった。1年生のときのようにただ楽しいだけではなくて、あまり真面目にはできなくなってしまった。理論討論会もいやで、



スキーのことをなるべく考えたくなかった。これはもう反省するしかない、もっと楽しんでエレの活動に取り組むべきだった。シーズンイン前は、本当に自信がなくて、怖くてスキーのことは考えたくなかったけれど、もう嫌いっ！やめてやる！みたいになる勇気もなく、ただただ今年こそはうまくなるという根拠のない自信を持つしかなかった。

シーズンはいろんなことがあった。詳しくはここにはあまり書けないけれど、辛くて辛くて、辛い中で充実していたと思う。自分のせいでシーズン中にたくさんの迷惑をかけた人もいる。師匠にもとてもお世話になった。今シーズンはズーっと教えてもらっていた気がする。師匠はシーズン前から支えてくれて、基礎から確実に教えてくれた。段階を踏んだ練習メニューを作ってくれて、焦らなくていいよとってくれて私は安心して師匠についていけました。ありがとうございました。

悔しくて、たくさんスキー場に行った。帰って泣いてビデオを見てたくさん考えた。充実はしていたと今になっては思うけれど、絶対にあの頃に戻りたくはない。去年は楽しくてスキーにいらっていたが、今年の原因力は悔しさと、できないことを認めたくない意地だった。

岩岳が終わって1級がとれて朝里が終わってやっと少しほっとできた。去年よりはうまくなれたとやっと実感できて、嬉しかった。だが、まだまだ練習しなくてはいけないことはたくさんある。PVに使われていた小回り、あんなカッコ悪い滑り方見られなくなかった。来年はもっとカッコよくPVにうつりたいな。

来年は今年出来なかった楽しんで滑るということを忘れずにやっていきたい。自分のことだけではなく、周りも見れるようになりたい。執行部にもなった。女子は札幌に私しかないが、私には全員を引っ張っていけるような能力なんてない。だから先輩とも後輩とももっと仲良くなって皆で協力してエレ女子を盛り上げていきたい。

---

## 荒井英臣

もうSPURを書くシーズンですか。2年目のシーズンもあっという間に終わってしまいました。今シーズンあげた目標ですが、ほとんど達成できてないですね。唯一できたのが、「師匠に勝つ」でした（笑）ほんと不甲斐ないシーズンだったな。とりあえず今年もシーズン一年間の振り返りでもしようかなと思います。

<オフシーズン>

最初の頃はスラッグラインを毎日のようにやって、自分でも驚くぐらいやる気があったな。でも、しだいに朝バイトの闇に飲まれていきまったくやらなくなりました。この頃はオフトレよりもどうやって上手いことバイトを辞めてやろうかに必死になっていました。今思えば、何故バイトに振り回されていたんだ。嫌なら嫌とってさっさと辞めれば、充実したオフになったと後悔していますね。ほんとバイト選びは大切だなと学ばされた半年間でした。

<シーズン>

バイトの呪縛から解放されとても気分が良かった。学科もそこまで忙しくないし、ONZE通いの毎日でした。そのおかげか去年よりも滑走日数を増やすことができました。とりあえず大会、選考会を振り返っていいかな。

・樽子

点数がでねえ。世知辛い。ロングが乗れなさすぎる。

ーロング板封印ー

・選考会

総滑こけた。でもいけた。小回り練習しておいた甲斐があった。(全部ショート板だからこけるんだ)

・岩岳 (個人)

また、点数がでねえ。世知辛すぎる。自分はプレッシャーに弱いわ。

・岩岳 (団体)

死と隣り合わせで意外とたのしい (^-^)

あと1点…

— ロング解禁 —

・朝里

点数がでる！スキー楽しい！！ロングとも仲良くなってきた。

こんな感じですね。終わりよければすべてよし、ってことでいいですかね。まあ、今シーズンはかなりスキーについて考えさせられたシーズンでした。シーズン通して何度も理論が変わって試行錯誤の毎日で、昨日まで信じていたモノが違ったり、違うと思っていたことが正しかったり、大変でした。でも、そのおかげで自分の理論がようやく出来てきたと思うので、今シーズンは技術部として執行部として指導していきたいと思えます。

来シーズンの目標

・岩岳スーシー

・道予出場

・団体Aチに入る

---

## 安藤廉平

今シーズンを振り返るとなかなかうまくいかないことが多い年だったように感じる。オフシーズンでは新しくチームに入り、エレのトレだけでなくチームトレをこなしていった。ただ、チームトレで教えてもらったことがなかなかできずにオフシーズンは終わってしまった。そしてシーズンイン。去年できなかったことを今年はやろうと思い、シーズンの最初のヶ月くらいは思っていたことができていたように思える。が、12月半ばくらいからチームで教わったこと、先輩に教わったこと、その他諸々の講習で去年と同じく知識の消化不良を起こし始め、合同合宿、メイン合宿、チーム合宿でそれが完全崩壊してしまった。(という言い訳) そこから先は、大回り、小回り、コブすべての種目がどれを軸にして作っていくかの方針が見えなくなってしまい、去年となんら変わらない滑りになってしまった。当然、年明けの小樽予選、選考会の結果は悲惨なもので今でも思い出すと体中が痒くなるかのような恥ずかしさが湧き出てくる。藻岩時期についても、一応は朝里大会を目標にしようと頑張っていたが、中々煮えきらず、団体裏ではコブに行って弾かれて死亡。疲れて北斜ロッジで休まり、やる気(体力)のある日はそこからもう一本滑りに行ったという…。なんともクソみたいな行動である。そこから岩岳に行き、個人戦選手の滑りを見て少しモチベーションを取り戻し頑張った次第である。その頑張りのおかげからか、朝里大会ではまさかの予選突破(50位中同率49位)し、準決勝では整地種目は準決選手内ほぼ最下位ながらも、コブでたまたま一通できたおかげでこれまた滑

り込みで決勝に。決勝では当然整地種目は雑魚、コブもコケる始末でてへべろな順位であったが、まあかなり満足ではある。今の2年生にかなりまくられているけど、選考会から同期をまあまあまくれたので勘弁してください。朝里大会後はいよいよ執行部が始まってしまい、執行部の大変さを味わいながらシーズンが終わったとき。

こんな具合でシーズンを振り返ってみたが、およそ去年と何ら変わらない1年であった。そろそろメイン付近で頭パンクすることだとか、オフシーズンの使い方だとかを理解してほしいものだが…。とりあえず、去年の目標であった打倒赤岩、中村りよは果たせずじまいだったので、今年もそれを目標に必ずこの二人を潰していきたいと思う。あとは下の学年にまくられないことです。どうやら一個下は一個上になら勝てるっしょという思いがあるらしいので（実際負けているので正しいことではあるが…悔しい！）その考え方を一個上にはやっばかなわねえわに変えてやりたいと思う。この二つの目標、書いていてかなりしんどいこと（ばかげてること）だとは思いますが、なんとしてでも達成したい。（特に二つ目。）以上。

---

## 大友雄登

今年度がある程度細かく真面目に振り返っていく前に、今年を一言でまとめると「すぐ終わった年」という感想です。2年目は楽だという先輩の話はやっぱり正しかったですね。

2度目のシーズンを迎えるにあたって「スキーへのモチベーションが高い」というか「スキーを勉強したい！」と思ってスキーの動画を見たり、スキーに役立つ筋力トレーニングを調べたりなど結構してたような気がします。それを基に自分が考えたベースをしっかりと持ってシーズンに入ったつもりでした。

今シーズンは学科の時間割の関係上、スキー場に行ける機会がそこそこ多かったと思います。シーズン前はこのことにメリットしかないと思っていました。ただ、先輩方に色々話を聞いていると自分がシーズン直前に固めたベースが間違っているのではないかと思ひ始め、11月後半から大回り小回りの考え方を一旦ほとんど崩してスキー場に行ったときに先輩や同期に色々話をしたり聞いたりしました。試行錯誤して自分に合ったものを確立させて2017年を締めたかったんですが、「迷走」。特に、大回りは全くどうすればいいのか分からなくなりかなり苦しい“シーズン”がこの辺りから始まったと記憶しています。年が開け、2018年が始まるとすぐに小樽予選があり、その後成人式で帰省して北海道に帰って来たらすぐに選考会というスケジュールだったのですが、いずれもまだ迷走中ということもあり当然結果は出ず、って言う感じになってしまいました。スキー場で先輩方に教えて頂いたものを家に帰ってから噛み砕いて整理することが不十分だったからこそこんな結果になってしまったと思います。

選考会が終わり、技術論も提出してある程度理論を整理したのでそろそろ迷走というトンネルから抜け出せるのかと思いきやまだまだ終わりは見えてきませんでした。

新人戦選考会の行われる2月上旬、大回りはどうすればいいか分からずっていう状況に変わりはありませんでした。教えて下さる先輩に自分の状況を伝えて対処法を考えてもらったこともあります。一回壊した滑りを再建するのに当然の苦労があるのは承知していましたが、与えられたメニューをこなそうとしましたが悪化しているような気がしてこのまま今シーズン終わってしまうのではないかという焦りを凄く感じ始めていました。

藻岩時期が始まり、このままメニューをただこなすだけだとこのトンネルから抜け出すのは不可能だと思ったので「自分の課題とその優先順位」を定めて、かつ強化練など先輩やコーチに教わるときは自分の滑りを一回ゼロにして教えて下さる方の理論を全て肯定して試すことをしたり、同期にいい練習と紹介されたも

のを挑戦してみるということが続けました。ただ、これをするだけだと迷走は抜け出せないで、試してみても自分の課題克服に少しでも合致しないものは容赦なく捨てることを覚えました。この勇気を持ち出してから少し気持ち的に楽になりました。

自分に合うものを探し続けて待ち続けて藻岩シーズンも終盤に入った頃、強化練で佐井さんに教わったものにトンネルから抜け出す兆しを感じました。次の日の強化練で、中川さんに教わったことは前日に教わったことと違うものだったのですが、「これも良い！」とちょっとブレ出しましたが、その後この練習をしていたら2つの要素を共存出来ることが分かり、一気にトンネルの出口が見えたような気がしました。ただ、まだ試す期間、やっと土台が固められ始めただけで滑りは全然確立していませんでした。朝里大会での大回りは結果がそこまで伸びませんでした(他はまだ良かったみたいな言い方ですがそんなことはありません)が、自分にとっては収穫が沢山あったし、大回り以外でも自分なりに試して結果は出なかったのですが来シーズンに向けて良い経験になったと思います。朝里大会で足りていなかった部分は沢山あって全部を分かっているわけではないですが春練までに自分で分析してしっかり整理できていたと思います。春練で講習の時間に自分で気づかなかった部分も指摘してもらいました。トンネルの出口が見えていなかった時期だったらここでまた底なし沼にどんどん埋まっていったと思いますが今は多少のベースがあるので未だトンネルの出口は見えています。

来シーズンは今シーズンと同様にスキー場に行ける時間はあると思います。もう今シーズンのような失敗はしたくありません。シーズンが始まってから選考会までの期間はそんなに長くないことが十分分かりました。今年の実省を活かして1月の選考会の時期には滑りをしっかり確立していきたいと思いました。岩岳や朝里といった大会に向けて確立されたベースの上に要素を加えていけば結果が出ると信じて緊張感も持って来シーズン過ごしていけたらなと思っています。

来シーズンの目標は、「部内選考会 12 位以内」「岩岳大会 120 位以内」という感じで決めようと思ったのですが、数字の目標を立てると自分は無駄な焦りが出て来ると思うので、技術的目標だけに、「その時期に自分が納得できる滑りを確立させること」を目指したいと思います。これが出来ていたら自ずと結果はついてくると信じて。

今シーズン、沢山の先輩や同期と一緒に滑る機会があったと思います。また、色々なコーチの方にご指導いただきました。迷走していた期間が長すぎたので迷惑を沢山おかけしたと思います。すみませんでした、そして、すごく感謝しています。ありがとうございました。来シーズンに結果を出して恩返しをしたいと思います。

最後に、シーズンイン直前、中条あやみを観るために『チア☆ダン 女子高生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話』と言う映画をわざわざレンタルショップから借りて観ました。その時にチアリーディング部の部長ノートに書いていた言葉に感銘を受けました。その言葉は、

「努力しても叶わないこともある。でも努力し続けるしかない。」  
来年もこの言葉を胸に長い長いシーズンを乗り越えて行きたいと思います。

---

## 第 52 代副会長 川上憲太郎

去年 SPUR を書いてから 1 年も経ってしまった。エレガントスキー部 2 年目は楽しかったけども悔しい 1 年だった。

オフシーズンはそれなりにしっかりとトレをしていたが、苦手な柔軟性を克服することはできなかった。また、左右の均等性も鍛えることができなかった。

暇な日が多かったのもっとトレをすることが出来たが、自分に甘い部分があり、ゲリラトレなどはあまり積極的に行えなかった。

今年は積極的にゲリラトレを行う時間はないため、普段のトレを集中して行っていくつもりだ。

そして今年のトレはお手本となり、下の代を教えれるようにしていきたい。

冬での自分の目標は達成できたものもあればできなかったものもあった。達成できたのは選考会 1 位や道予決勝進出や朝里入賞であった。しかし、1 番達成したかった岩岳での目標は何一つ達成できなかった。あの瞬間のために 1 年間がんばってきたものの、その努力は実らなかった。個人の弱点は明確であるので、届きそうで届かなかった個人戦入賞は必ず達成する。

また、団体演技は今年から変化を求める必要があると感じたので、変化を加えて勝負してみたい。

結局、総合優勝が何よりも難しい目標である。1 番でかい目標であるだけあって、1 番達成しにくい。これは部員全体の力の底上げが必要だからである。今年在去年同様厳しい状況であることには変わらない。そのために執行部である僕たちが部を優勝に導くためにやれるだけのことはするつもりだ。受け身だけではなにも変わらないので全員意識を変えて欲しい。もっと積極性がこの部には必要である。勝利に飢えて、執念を持ち、またあの場所で今度は笑顔で終わりたい。

今年がスキーに打ち込める最後の年だと思い、全力でやっていく。

---

## 鈴木悠太

2 年目のシーズンはまさに「秒」でした。2 年目になった時よく先輩方から 2 年目は一番楽しいよ！と言われて、確かにその通りだと思いました。比較的何にも縛られることなくただ純粋にスキーを楽しんだ 1 年で、本当にあっという間でした。今思えばオフシーズンもシーズン中もスキーのことばかり考えていました(笑)。オフはインラインしたり、動画見たり、技術論読んだりして頭の中ではもう全日本の滑りをしていました(笑)。

しかしいざシーズンを迎えると・・・

まったく思い通りにいかず、あれこれとやろうとしすぎて最初の札予でボロボロの結果でした。またシーズン初期は勉強も忙しくスキーにもあまり行けなくて、もっとも楽しみにしていた岩岳の個人戦出場をかけた選考会で無念の 16 位。師匠にも申し訳なくて、本当に悔しくて涙も止まらず、1 位の男に差し出されたティッシュであふれ出る涙を拭いてました、、

そして藻岩ラッシュを終え、岩岳へ。

藻岩は今回の悔しさを朝里でぶつけてやる！という意気込みで朝から晩まで滑りました。今年の岩岳はサポートとして割り切って、行きのビュッフェや温泉を満喫して長野へ。巨大な岩岳のスキー場にたくさんの大学が集まり、優勝を目指して戦う姿を見て、一年前の興奮が再び呼び覚まされました。やっぱりあの悔しさをぶつけるのは岩岳しかないと改めて感じました。また今年は優勝を逃してしまい、サポートながら本当に悔しかった。来年は自分もしっかり出場して、優勝を全員で勝ち取りたい。

岩岳を終えて、ようやく朝里大会。試合に出られる！

朝里大会は学連のお仕事に追われながらも久々の試合なので楽しみだった。そこまでいい滑りはできなかったが、試合自体は楽しかった。ただゲレンデで携帯を落としてしまい、後日バキバキにピステがかけられた状態で見つかった。ああああああああ。まじで最悪でした。

そのあとの春スキーは一番成長できたと思う。何より今年はキャンサーにあまり悩まされずに、存分にコブも楽しめた(笑)。だけど二年生を教えていて、本当に教えることは難しいと思いました。

こんな感じの1年でした。岩岳がでかすぎました。でも落ちた後も変わらず一生懸命スキーを教えてくれた師匠には本当に感謝しています。滑りのクセがすごい弟子3人もお疲れ様でした(笑)。

次は3年目。執行部として部を運営する立場になりました。また大学も忙しくなるので、今年は密度の濃い1年となりそうです。弟子もできるし心配が多いですが、しっかり責任感をもち、先輩、同期、後輩と協力して、このメンバーで最終的に岩岳に優勝できるように頑張りたい。

---

## 田中 成奈

オフシーズンとオンシーズンに分けて書く。

オフシーズンはエレに対するモチベーションが非常に低かった。1年の時の岩岳が終わって以来、全くやる気が出ず、どの行事も面倒くさくてあまり行きたくなかった。春練とか理論講習会とかは、ご指導して下さった先輩方には本当に申し訳ないのですが、早く帰りたいとばかり思っていた。後輩ができて引っ張っていく立場になったのに何もできなかったことを後悔している。

シーズン中は本当につらかった。

あんまり思い出したくない

選考会で通ったのはエレに入ってから一番うれしかったことかもしれない。しかも団体も出れるなんて。夢みたいで、一週間くらいは全く実感がわかなかった。1年の新人戦選考会での悔しさも晴らせた。

でも、この後が本当に苦しかった。

もっとうまくなりたい。でも、講習が終わるとすぐに団体練。団体は思うようにいかず、みんなに迷惑ばかり。毎回スタート前に心臓がバクバクした。失敗したらどうしよう。なかなかうまくなれない自分に何度も腹がったし、本当に情けなかった。リフトでは申し訳なさすぎて何も喋りたくなかった。今度こそと思ってリフトを上がると、ナルキと悠太が先輩に教えてもらって、どんどんうまくなっていって自信を失った。帰ってビデオ見ても解決策は見つからないし、次の日も朝から練習に行くけど解決策が見つからないから、どうしたらいいかもわからない。結局、何も変えられないまま岩岳に行って不甲斐ない結果を残してしまった。みんなに申し訳なかったし、優勝できなかったのは悔しかったけど、1番心の中で大きかったのは、やっと終わったという安堵の気持ちだった。

岩岳、朝里後はスキーが本当に楽しくて特に新歓合宿で行ったニセコは格別だった。あそこでシーズン終わりに滑れたおかげで、スキーってやっぱり楽しいなと思えたし、来年うまくなるために何をしなければならぬのかのヒントにもなった。そういったこともあって、今年はオフシーズンからめっちゃめっちゃやる気が

ある。この勢いで来年こそは今年自分が何もできなかった分、いい結果を残し最高の形で岩岳を終えられるように頑張りたい。

最後になりましたが、昨年度もご指導くださったコーチや先輩方、また大会などでサポートしてくれた同期や後輩、本当にありがとうございました。

---

## 谷岡拓実

まず昨シーズンの反省からしたいと思う。昨年の SPUR を描いた時にたてた目標を振り返ると、1 級を取るといことと岩岳の個人戦出場を目標として書いていた。1 級を取るとい最低限の目標をシーズンの最後の最後ではあったが、達成できたことは良かったと思う。しかし、もう一つの目標であった岩岳個人戦出場に関しては達成から程遠かった。選考会では 1 年生にも負け、最下位という散々な結果だった。昨シーズンの序盤、学科が忙しかったこともあり、なかなかスキーに行けなかった。学科の忙しさの山を超え、スキーに少しずつ行けるようになった時には、選考会まで 1 ヶ月を切ってしまっていた。そのような中で上達するには、スキーに行ける 1 日 1 日、そして 1 本 1 本効果的に滑らなくてはいけない。しかし、昨シーズンはそれができていなかったように感じる。

今シーズンの目標は、岩岳優勝である。そして、岩岳に出場して 1 ポイントでも多くとってエレの優勝に貢献したいと思う。そのためには、今のままでは絶対ダメだと思う。選考会での結果でも朝里の結果でも、このままでは岩岳に出られない。昨シーズンよりも 1 本 1 本密度を濃くやっていきたい。

また、今年は弟子を持つことになる。自分が少しでもスキーを上手くなって、それを伝えられるように、弟子が少しでも上手くなるように頑張っていきたいと思う。

最後になりますが、OB、先輩、コーチの方々や同期、後輩など沢山の人の助けがあったからこそスキーができたと思います。特に昨シーズン忙しい中こんな僕を教えてくださいました師匠の柿澤さんありがとうございました！

今年は勝負の年にしたいと思います！

---

## 長世智朗

昨シーズンを振り返ってみると、自覚が足りない 1 年であったと思う。2 年生としての自覚が足りなかった。昨年は 2 年生になり一つ責任が重くなった。しかし、やっていることは 1 年生の時と変わらず、ほとんど成長がなかった。特にオフシーズンでは普段のトレをこなすだけになっており、よく考えて練習が出来ていなかった。ただ、シーズンインしてからは知識を少しずつ集め、考えるようにはしたが、十分ではなかったように思える。来シーズンはもっと多方面から情報を集め、知識を増やしていきたい。

今シーズンは執行部となり、部を引っ張っていく立場になる。自分はトレ部という立場になり、部員が少しでもスキーが上手くなるように、感覚がつかめるようにサポートしていく必要がある。そのためには自分が練習についてよく考えたり、コーチの方々から情報を集めたりする必要がある。少しでも部員が成長できるように全力でトレ部をこなしていきたいと思う。今の 2 年生には自分の上達のためにトレ部になることを

勧めたい。

来シーズンは個人戦選考会出場者が多くなり、倍率は高くなる。今の自分の実力では個人戦選手入りは厳しいだろう。個人戦選手として出場できるように、1年間自分に出来ることをやっていきたいと思う。

最後に、昨シーズンご指導下さいましたコーチの方々、先輩の方々には大変お世話になりました。また一緒に練習した同期、後輩のみんな、ありがとう。来シーズンもどうぞ宜しくお願い致します。

---

<2年目>

## 浅野晃平

僕が大学でスキーをやろうと思ったきっかけは新歓スキーとエレのPVでした。スキーってすごい楽しそうだなって純粹に感じて、エレに入部させていただきました。

5月から本格的に始まったオフシーズンの活動は充実感でいっぱいでした。エレでの活動が起点となって、勉強やバイトなどいろいろと不安だった大学生活を安定な軌道に上手く乗せることができたように思います。ゲリラトレにも参加することができて、オフシーズンは本当に達成感というか満足感というかそんな気持ちでした。

シーズンに入って、スキーというスポーツが自分にとって身近なものとなり、シーズン当初はスキーをするということが新鮮でスキー場に行くたび行くたびに新しい発見を得ることができました。でも次第に自分のスキー技術の上達が遅れていると感じるようになって、年明け後は滑りに行くたびに「なんでできないんだろう」と思い悩むばかりでした。その頃は自分のスキーを悪い方向にしか考えることができなくて、「スキーは自分に向いていないのかな」と思い詰めてしまっていて、上手くなれる気がなくて、スキーをするのが苦しくて師匠の前で泣いてしまったり、エレの練習に行きたくないと思ってしまったり、2月以降はスキーをすることが正直とてもしんどかったです。でもしんどい中でも自信になったことがいくつかあって、1つ目は2級を取得できたことです。1年目シーズンで2級の取得は無理かなと半ばあきらめていた3月に無事合格することで、はじめて自分の滑りをカタチとして認めてもらえたような気がしました。11月から滑ってきた成果を実感できたので内心とても嬉しかったです。2つ目は春練です。雪質の関係もあるかもしれませんが、大きな課題の一つの内足を少しずつ倒すことができるようになりました。内足を少しずつ使えるようになったことによって自分の滑りが動画を見ても大きく変わったし、春練での滑走感は今までにない気持ちよさでした。2級取得と春練での経験によって、時間はかかるけれど、少しずつ自分の滑りを変えているんだと実感し、来季にもつながる自信になったのではないかと思います。

2年目となる今シーズン、すでに始まっているオフトレでは冬を経験したことで一つ一つの動きに何かしらのスキーの動作のイメージを持てるようになりました。11月までのオフトレにおいて、冬に見つけた課題やトレ中に気づいたことを改善できるよう、積極的にからだを動かして有意義なものにしていきたいと思います。そして、こんな自分でもいつかは個人戦選手として岩岳に出場し、選手として部に貢献したいという夢があります。卒部するまでに再び岩岳に出場することは自分の実力では難しいことかもしれないですが、その目標を諦めず強く持って、2年目シーズンを大切にしていきたいです。

最後に、師匠をはじめトレ、講習、合宿、スキーのご指導等でお世話になった先輩方やコーチの方々、マテリアルの購入や度重なる調整等で毎回丁寧に対応してくださった用品店の方々、そして家族、友人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



---

## 石川友貴

例によって例のごとく昨年の振り返りから入ります。

4月に入学して、雰囲気とスキーでもするかーって感じで決めたのがエレガントスキー部でした。昨年のオフトレはなんか先輩がスキーにいるんやでっていうトレをなるほどなるほどこなしているだけで意味がわかりませんでした。週3のトレ以外のゲリラトレは暇つぶし程度に行っていたわけですが、今思い返すとそれが意外と楽しかったです。トレ中は特に3年生の先輩はトレを運営することに必死な感じが伝わってきてあまり質問とかできなかつたのですが、ゲリラトレはそんなに人数もいなくてのびのびとマイペースにでき、人数も少なくて先輩の考えがわかって良かったです。

夏休み、グレステンで同期の名前をやっと覚えられて後期のシーズンインまではインラインばかりして、という感じでオフシーズンもなんだかんだいって充実していたと思います。

シーズンインしてからはあっという間でした。スキーに対しては楽しいという感情と燃える感情がありました。楽しいのは師匠や先輩に教えてもらったことが試行錯誤の結果できるようになって、スキーがうまくなっていくのを感じられたときです。あとは単純に滑っているだけで楽しかったです(スピード狂なんです)。燃えてくるときは、先輩のすべりを見て、あれに近づきたい、いや、あれを超えたいと思うときや自分ってド下手やなって思うときでした。どうしても同期と比べてしまうと思うのですが、自分の場合はMなのか知りませんが自分の下手さに気づいて負けている自分の情けなさに燃えてくるが多かったです。あとは師匠がかなり熱心な方だったこともあり、その期待に答えたい気持ちもありました(本人には言ったことありませんが)。

そんなこんなで朝一から夜最後までオーズや藻岩にこもったりしてそこそこうまくなれた気がします。目標にしていた岩岳ポイント取ることも今シーズン内1級も達成できたのでよかったです。個人としては、

というのも、今年は全体の目標の岩岳男女総合優勝できていないことがやっぱり残念な点です。そのためにも、全体の力を上げるには個人の実力を上げることが必要と思うので、僕が実力をつけなければいけない、と思いました。

次のシーズンにはよりスキーがうまくなるように、身体能力の底上げをオフシーズンで行い、オフの間からスキーを研究し、シーズンイン直後から上達できるようにしたいと思っています。というわけで、最後に来シーズンの目標を掲げて締めようと思います。

目標：岩岳個人選手として総合優勝に貢献する、札予、樽予に出られるので道予までいく、1種目以上同期の中で1番になれる種目を作る、機械知に翻弄されない

---

## 伊藤結衣

目標： 個人戦選考会1位 道大会出場 岩岳個人戦スーシー

最初に言ってしまうと、私は高校の頃から大学で基礎かエレに入ると決めていました。というのも、高校の

先輩や先生が基礎スキーをやっていたので、基礎スキーに異常に興味があったからです。エレに入って念願の基礎スキーに取り組むことが出来た1年間でした。元々運動が好きなこともあって、オフシーズンは楽しく過ごしていました。そんなこんなで、人との関わりが狭く、広げようとも思わなかった私ですが、同期や先輩とエレを通して関わるうちに、少しずつ色々な人と話せるようになっていました。(まだまだ内輪に留まってしまふ性格ではありますが) スキー以外のことで、エレに入って本当によかったと思うのは自分の中で人との交流が広がったことです。

いよいよシーズンに入って待ち望んだスキーが出来るということで、ほぼ毎日スキー場に通いました。上達するのが楽しかったし、新人戦で表彰台に乗るか、はたまた個人戦選考会で団体メンバー入りを目指すか、など目標を考えるようになりました。私が一番憧れていたのが、団体戦でした。でも新人戦で表彰台に乗りたい気持ちも強く、新人戦にでるか個人戦に出るかずっと迷っていました。憧れの団体戦に出るためには個人戦選考会に出なければならぬけれど、新人戦のチャンスは今年しかない、など、色々な人に話をきいてたくさん悩みました。悩んだ末に、私は札予までにオーズのコブが滑れるようになったら、個人戦選考会に出ると決めて練習することにしました。ちょうど年末くらいにコブがなんとなく滑れるようになったので、個人戦選考会に出て、団体メンバー入りするために本気で練習していましたがそんな時、選考会5日前の札予で転倒し腰椎横突起を骨折したのです。個人戦選考会どころか、岩岳も間に合わないようなことを医者に言われて、絶望しかありませんでした。死んでも個人戦選考会に出ると医者に言って意地を張っていましたが、体は全く動かせず、選考会に出ることが叶いませんでした。ずっと目標にしていたことが一瞬で崩れ去り、スキー場にも行けず、毎日泣くことしかできませんでした。この頃、同期にも先輩にも沢山迷惑をかけました。それでもみんな励ましてくれて、助けてくれて、本当に感謝しています。師匠からは「早めにシーズンオフになったと思って、滑りを見直して、復帰する時にどんな風に滑りを変えるか頭で整理してみたら良いよ。」と言われたので、スキーのできない辛い中でも、スキーのことを考えながら過ごすことができました。そのおかげで小回りのイメージが整理できて、復帰して小回りの滑りを変えることができました。どうしても選考会には出たくて、師匠の反対をスルーして新人戦選考会に出ました。小回りだけ一位を取りました笑。しかし、また転倒するのではという恐怖で急斜はカービングができなくなりました。団体の練習風景も羨ましくて仕方ありませんでした。しかし同期や先輩の協力あって、だいぶ早く雪上に復帰できたことだけでも幸せです。本当にありがとうございました。

怪我明けから目標を変えて、岩岳新人戦で表彰台に乗ることを目標に、藻岩時期は一生懸命練習したつもりです。自信は満々な状態で臨んだ岩岳でしたが、自分の詰めの甘さと実力不足で表彰台に乗れませんでした。あまりの予想外の結果に不甲斐なくて、また大号泣してしまいました。新人戦に臨むにあたり、怪我をしてから色々な思い入れがありすぎて、しばらく立ち直れませんでした。そして岩岳時期は、同期女子はそれぞれが辛い思いを抱えながら臨んでいたのだと思います。そんな同期女子を思いやれず、きついことを言ってしまったこともありました。本当にごめんなさい。こんな感じで岩岳は心残りだらけです。朝里の新人戦でも、あと3点足りず4位。また表彰台を逃しました。

色々乗り越えて頑張ったつもりだったシーズンでしたが、結果は一つも納得いきませんでした。悔しいのみです。でもこの悔しさをバネに来シーズンはもっと頑張れそうです。絶対に目標達成してやります。

最後に、怪我の時もずっと支えてくれて、藻岩の辛い時期も一緒に滑ってくれた同期、いつでも熱心に教えてくださった先輩には感謝しきれません。そして師匠、忙しい中、オフのインラインも、公式練も、怪我中でも練習内容を文書にしてくれたり、薄情者の私にいつも全力で教えてくださいました。ここまで成長できたのは師匠のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

---

## 伊藤竜之助

### オフシーズン

スペイン語の授業で偶然ペリもと同じグループになり、たまたまサークルの話をし、入部決定ミーティング 2 日前に転がり込んだのがエレガントスキー部だった。北海道に来たからにはウィンタースポーツをやってみよう、という思いは持っていたのだが、こんなにガチな部活だとは思わなかったのが最初は不安が大きかった。オフシーズンのトレーニングは初めて知る動きも多く、正直何が正しいのか理解していないままやっていたと思う。今年は、シーズンを乗り越えてスキーに必要な動きも少しは分かってきたので、ただメニューをこなすだけでなく、頭で考えて一つ一つ動きを確認していきたい。と言いたいところだが、今の僕は後述する怪我の手術のせいで松葉杖状態のため、歯がゆい思いで過ごしている。今年は怪我をしない体も目指したい。

2017 年 10 月 20 日、悲劇が起きた。河川敷でインラインの練習中に右足首を痛め、足首を曲げることが大事なスキーで足首を曲げられない状態になってしまった。病院では手術しなければ治らないと言われたが、シーズンまでもう 1 ヶ月を切っており、シーズンをどう乗り切ろうかと本当に落ち込み、悩んだ。しかし、師匠や同期、先輩方が心配して声をかけてくださったり、シーズンの過ごし方の相談に乗ってくださったおかげでなんとか乗り越えることができた。本当にありがとうございました！

### シーズン

いままで家族旅行で行ったスキーでは適当に滑って楽しんでいればよかったが、エレでのスキーは全然ちがいが、驚いてばかりだった。まず、先輩方が使うスキー用語を知らなすぎて（プルークも知らなかった）それを覚えるのが大変だった。また、僕は人の滑りを見てクセや良い部分を見抜くのが苦手で、ビデオもただ呆然と見ていることが多かった。同期の数人でビデオを見たりする時も、他の同期がクセを見抜いたりしているのを見ると、自分がバカみたいで（実際その節はあるが）悔しかった。シーズン中盤になると、他の同期はみんなコブの練習を始めたが、僕は前述した怪我のこともあり、ほとんどコブに入ることはできなかった。同期がどんどん実力的に遠い存在になっていくのが悲しかった。上達の速さもシーズン前に思い描いていたものと全然違い、自分の無能さにモチベーションも下がる一方だった。しかし、2 月に入ると毎日のように練習があり、モチベーションが下がっていることも忘れるくらい忙しかった。おかげで 2 月は余計なことを考えずにスキーに打ち込むことができた。岩岳や朝里の成績はパツとしないものだったが、特に岩岳は本当に楽しかったし、エレに入ってよかったと思えた。来シーズンはコブを極めること、滑走日数 100 日、そして怪我をしないことを目標にやっていきたい。

---

## 榎本将聖

遂に 1 年が経ってしまいました。あっという間の 1 年でした。エレガントスキー部の 1 年目として、また北大の総理の 1 年生として過ごした 1 年は忙しくもあり、辛くもありましたが、それでも凄く充実していて楽しい 1 年であったと心からそう思います。

思えば、このサークルに入った理由は、スキーが上手になりたいということと、一緒に滑ってくれる先輩や友達に欲しいという理由でした。双子の兄がスキーに飽きて、高校の頃のスキー部の活動が下火になってから父

親と孤独に寂しく滑っていた僕にとって、70 人もの部員が一生懸命スキーに取り組んでいる、というのは素晴らしい環境なのです。人と一緒に滑れることが何よりも楽しく、かけがえのないものでした。

シーズン中のことを軽く振り返りたいと思います。僕は小さい頃からスキー好きの親に連れられてスキーをしてきました。しかし、基礎スキーのことになると、僕は全くの無知であることがシーズンの最初の方に分かりました。ターンの基本は外足加重だとか、そんな基礎スキーにとっては凄く当たり前のことすら知らなかったのです。今まで知らなかった技術や考え方を習い、少しずつ上手くなっていくことが本当に楽しくて、昨シーズンはただ純粋にスキーを楽しんでいたと思います。1月に伸び悩んで、そこからの新人戦選考会で初心者から始めた同期に負けるという辛い時期もありましたが、スキーが嫌いになることはなく、むしろ岩岳でやり返してやる！とスキーへのモチベーションが高まり、春休みは苦手であり好きじゃなかった小回りをひたすら練習しました。

大会では、岩岳、朝里ともに良い結果を残すことが出来ました。岩岳は、初めての大会、初めての道外のスキー場でした。結果は新人戦 15 位で、目標としていた表彰台にはわずかに届きませんでした。春休みにたくさん練習した小回りで良い点数を出せたり、大回りがパワーアップしたりなど、楽しい出来事がたくさんありました。朝里では、師匠お墨付きの下手くそなプルークのせいで、危うく準決まで行けなかったところでしたが、ギリギリ敗者復活で通ることが出来ました。コブでこけましたが、何故か決勝まで残れました。温泉は最高だし、ご飯はおいしいし、全日程で滑ることが出来るし、とても良い大会でした。

エレのお陰で昨年は非常に充実した 1 年でした。勉強や時間割、過去問の相談に親身になってのってくれる先輩や、はちゃめちゃにスキーが上手い先輩、スキー場で毎回一緒に滑ってくれる先輩、エレにゆかりのある凄いコーチ陣、愉快的な同期達、そして信号班の師匠や兄弟弟子などなど、色々な方々のお陰です。本当にありがとうございました。

来年の目標は、個人戦選考会で 12 位以上を取って個人戦、団体戦共に出場することです。来年はスキーに費やせる時間が減ってしまうので、オフのうちにたくさん勉強して、シーズン入ってからの練習の方針をガチガチに固めておきます。昨シーズンのエレ全体の岩岳の結果は悔しかったので、来シーズンはエレにもっともっと貢献していきたいです。

---

## 遠藤大斗

Spur を書くにあたって去年を思い返してみましたが反省点しか思いつかなかった。中高ともに運動をしてこなかった自分にとって大学入学してから適度に運動できて、ある程度楽しめるようなサークルがいいと思いエレにはいった。実際にトレが始まってから大体周りは筋力や体力がある人ばかりだとわかり、自分はただトレについていけただけだった。自分で体力や筋力をつけようとは思ったが自分にとっても甘くそんなことはできるはずもなかった。インラインに関してはシーズン直前になってから楽しく感じるようになったが、あまりにもやる気を出すのが遅すぎたと思う。学科が暇(?)なので積極的にオフシーズンからいろいろなことに取り組んでいこうと思う。シーズンに入ってからとにかく行ける日はスキーに行くようにしていた。師匠のおかげで考える癖はついたが、2月の藻岩時期など疲れがたまると考えが浅くなったり動きを修正しようとしなかったり、練習する時間は多くとれているはずなのになかなか上達しないこともあった。自分の体の動きを修正できなかったり考えの浅さのせいで上達が遅くなってしまったと思う。またスピードや斜面に対する恐怖心がかなりあってそのせいで体が思う様に動かなかったりした。来シーズンはもっと思い切りよく滑っていきたい。新人戦選考会から始まり、岩岳、朝里などの場でいい成績は残せなかった。多少は悔しく同期が羨ましかったがそ

れでも泣けるほどではなく、それはいかに自分が雑な気持ちで練習をしてきたかがよく出てくる気がした。それは1級に落ちるという結果にもよく出てくると思う。大会などの緊張する場での滑走は慣れも必要だと思うのもっと日ごろの練習から緊張感をもってやっていこうと思う。

半年間スキーをしてきて、また半年たてばシーズンが来てしまうと考えるとあまり時間がない。後悔のないというのは人間である限り無理だと思うが後悔の少ない一年にしていけたらいいと思う。まとまりのない文章でしたがこれで終わりにしようと思う。

最後になりましたが、昨年度教えてくださった師匠と先輩方、本当にありがとうございました。今年もよろしくお願いします。

---

## 大野雅史

この一年はエレガントスキー部に入って良かったと思えるようなものでした。学館が同じ友達に誘われて新歓スキーに参加した時に初めてエレを知りました。それまでは全くスキーのサークルに入ることは考えていませんでした。しかし新歓スキーで滑った時に、北海道に来たのでスキーが上手くなりたいと思いエレに入りました。そんな感じの理由で入ったので、最初の頃はとりあえず一級が取れば良いなぐらいの気持ちでした。それも、一年を過ごす中で少しずつ変わっていきました。

シーズン初期は、とにかく兄弟弟子の二人に追いつこうと必死でした。どちらも経験者で上手かったので公式練ではつらい時もありました。特に、コブでは兄弟弟子たちが普通に滑り降りている中で吹っ飛んでばかりで、一時期非常にコブが嫌いになりました。それでも、同期が結構スキー場に行っていて上手くなっていたので置いていかれないようにそれなりの頻度でスキー場には行っていて、気が付いたら新人戦選考会を迎えました。しかし、新人戦選考会では順位が伸びず悔しい思いをしました。藻岩時期には、岩岳や朝里でいい成績を残したいと強く思うようになり、それを目標に滑っていました。その甲斐もあってか岩岳ではポイントを獲得でき、朝里では決勝に残ることが出来ました。最初の目標であった一級も無事取得することが出来ました。

こんな感じでシーズンを僕は過ごしたが、その中で同期、特に学館が同じ二人には支えられていたといいます。スキー場に行きたくないと思っている時でも行くのを誘われたり、彼らがとにかくスキー場に行っていたりしたため、自分も頑張らなくてとは刺激を受け、スキー場に行くことが出来ました。また師匠を初め、先輩方にスキー場で丁寧に指導していただき上手くなることが出来たのはとても恵まれた環境でお世話になりました。多くの人に支えられて、シーズンを過ごすことが出来たのだとシーズンを振り返って改めて感じました。

昨年の反省としては、体作りが十分でなかったことと滑りの分析が甘かったことだと思います。そのためオフシーズンでは、しっかりと体力をつけて長い間滑っても疲れないようにして、自分の体のバランスが悪いところを強制していきたいと思います。また、しっかりと自分の滑りを分析することで、来シーズン何を練習すべきなのかをイメージして滑りを変えていきたいです。昨シーズンほどは、来シーズンは授業の関係などで滑ることが出来ないため効率よく練習するようにしていきたいです。

来シーズンの目標は岩岳で団体に参加できるようになることです。そのためにも上にあげたことなどを意識して一年を過ごしたいと思います。

また、最後になりましたがこの一年支えてくれた同期と先輩方に心よりお礼を申し上げます。

---

## 越智千香子

エレガントスキー部に入ってから約1年が過ぎ、時の流れる早さにとても驚きます。去年は勉強・サークル・バイトと忙しかったけれど、とても充実していたと思います。エレガントスキー部に入って本当に良かったです。

スキーが始まるまでのオフシーズンは、筋トレや走ることが中心で正直辛かったです。というか、今年もやっていてとても辛いです。でも、シーズンを通して筋力と柔軟性の重要性を感じたので、今年は筋力と柔軟性を強化できるように毎日コツコツと頑張っていきたいです。あと、インラインも今年は頑張ります。

そして、辛く長いオフシーズンに耐えシーズンインをしました。シーズンを通して、同期のみんなが上手くなるのが早くていつも焦っていました。自分は言われたことが全然できないし、理解できなくてよくへこみました。また、スキーについて考えている同期の話を知ると自分がどれだけ何も考えずに滑っていたかを思い知らされました。だけど、同期（特に同期女子）が毎日スキー場に行っているのに影響されて、スキー場には毎日のように行きました。私の場合、スキーに毎日行くことよりも、スキー道具を毎日家から持っていくことがしんどかったです。よく毎日持って行ったなあ自分でも感心します。今年もやらなければいけないと思うと今から憂鬱です、、、

岩岳、朝里と大会がありました。結果はあまり良いものではありませんでした。自分が大会を目標としてスキーの練習をあまりしていなかったことが露呈したと思います。朝里大会のレッド大回りの時、急斜面で大回りを全然練習したことないことに気が付きましたが時すでに遅しでした。

次に来シーズンの目標を書きます。まず一番に小回りの練習を沢山して小回りを一番の得意種目にする事です。今シーズン小回りの練習から逃げ続けて結局全然できないまま終わってしまったので、来シーズンは一番練習します。あとは、今シーズンの反省から大会を見据えながら日々の練習をしていこうと思います。

最後に今シーズンご指導して下さった先輩方、ありがとうございます。特に師匠の白鳥さんには、私のコミュニケーション能力の欠落により大変迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。私が今シーズン一級に合格することが出来たのは師匠のおかげです。熱心なご指導ありがとうございます。来シーズンは今シーズンよりももっと頑張るので、よろしくお願いします。

---

## 笠井崇史

<今シーズンの目標>

岩岳団体メンバー入り。

道予出場。

コブのスペシャリストになる。

今シーズンは上に挙げた個人目標を達成し、エレガントスキー部全体の目標である岩岳大会男女総合優勝に貢献したいと思っています。個人目標は、団体で滑るということに強い魅力、憧れを感じていること、とんでもなく上手い選手と同じ土俵にたって、競えるのはとてもワクワクしそうなこと、大会での先輩たちの滑りや自分自身の滑りを振り返って、コブに救われることもあるし、逆に足元もすくわれると感じたことを理由に上記の3つにしました。

## <昨年度の振り返り>

オフシーズンは普段のトレのおかげで、受験で落ちてしまった体力や筋力を楽しみながらも徐々に戻していきました。ただ、昨年度の反省として、まだ本格的にスキーを始めていないということもあったかもしれませんが、トレとスキーがどう関係しているのかあまり理解できていませんでしたし、スキーの為の筋トレというよりは、筋トレの為の筋トレとなっていました。ですので、今シーズンはトレの中でスキーのことをしっかり考える時間を意識的に作っていき、動きと結びつけたいです。それに加えて、オフの間でも新しいことができるようになるという楽しい経験を積むために、些細なことでも昨日よりできるように挑戦するという心持で過ごしたいです。反省ばかり綴ってしまいましたが、エレで過ごすオフシーズンでの各種行事はとても楽しく、充実した日々を過ごせました。

雪が降り積もり、やっと待ちに待ったスキーができるってなって、とてもウキウキしました。いざスキーを始めてみると、今までそんなにしてこなかったスポーツということで、雪の上にたって滑るっていうのがやっぱり新しくスキーに行くのが毎回楽しみでした。しかし、最初のうちは、スキーが自分のいうことを聞いてくれないし、足がそろわず、ハの字から抜け出せんしで少し悲しくなりましたが、師匠をはじめとし先輩方の教えのおかげで徐々にうまくなっていくことができました。徐々に新しいことができるようになるという成長が、とても楽しく感じました。その回数をたくさんにしていくためにも、結果を出していくためにも、二年目のシーズンとして今自分がどんな滑りをしている、どこを改善していけばいいのか自分で「考える」ということを徹底していきたいです。先輩やコーチに指摘されるのを待つのではなく、自分の積極性も大事にしていきたいです。昨シーズンは岩岳でも、朝里でも自分が納得いく結果を得られず、大変悔しい思いをしました。やはりその原因というのは自分の滑りにしかないのも、自分が気持ちよく滑るというのもたまには大切な事だと思いますが、客観的にみて上手い滑りとは何か、自分はどこが違うのかを考えたいです。

またシーズンを通して、師匠と兄弟弟子から学ばせてもらうことが特に多くありましたので、感謝しかありません。兄弟弟子はスキーに対する思いが僕なんかよりも全然強く、何も考えずに気持ちよく滑っちゃいがちな自分を見直させてくれました。加えて、スキーがうまいので、公式練で滑りをみても負けてられないなど思っていました。師匠は中々言われた動きを表現できない僕に粘り強く熱心にスキーのことをたくさん教えてくれた他、やっぱり大会等で滑っている姿がとても頼もしくて、そのたび自分も頑張ろうという気になりました。そして何よりも、言葉だけではなくて、行動で示す姿がスキーに向き合う姿勢として見習っていきたくて強く感じています。また、今シーズンからは師匠と同じ土俵に立つことになるので、生意気ですが一刻も早く追いつけるようにしたいです。他にもエレの皆さんにたくさんお世話になりながら、いい一年を過ごすことができました。更にいい一年にしていけるよう頑張ります。

---

## 加藤 慧

来シーズンの目標

団体Bチ入り、道予出場、岩岳個人戦、プルークの練習

オフシーズン

北海道に来たからにはスキーだろうというありきたりな理由で入部を決めた。

オフのトレは正直大嫌いだった。今もあまり好きではない。体型もあれなので全然付いていけず辛かった。それでも見捨てずに指導して下さった先輩方、イジってくれた(?)同期には感謝している。そんな不甲斐ない

自分ではあったが、毎回測定会では結果が良くなっていて成長を実感できていた。

## シーズン

オフシーズンでみんなに体力的に追いつけず、結構イジられたのでそいつらを選考会で見返してやるという思いでスキーに取り組んだ。師匠と兄弟弟子にも恵まれ、楽しくスキーをすることができた。選考会前には二級を取得することができ、良い流れで選考会に臨むことができた。結果は3位と素晴らしいものになった。師匠と目標にしていた5位以内に入ることもできた。しかし、それ以上に、オフのトレで散々イジリ倒してきた多数の同期に勝つことが出来て、とても嬉しかった。

まあこのまま万々歳でうまくいくわけが無いのがスキーというスポーツであろう。岩岳では36位とそこそな成績を取めることができた。しかし、その次の朝里大会で地獄を見た。プルークでまさかの54人中52位という悲惨な結果に。翌日の敗者復活でも得意のロング系で足が飛んでしまい、苦手な小回りでもやはり点が出なかった。シーズン最後の大会でこのような結果になってしまい本当に本当に悔しかった。この悔しさをバネに来年に臨んで行きたい。

初めてのシーズンは想像もしていなかった様々なことがあった。周りの方々に支えられて終えることができたと思っている。

私にとってエレの新歓が初めてのスキーだったため、滑れない自分と同期との差を実感するのが怖く、憂鬱な中でシーズンを迎えた。しかし、いざ始まると親切な先輩方のおかげで毎日できることが増えていき、スキーが楽しくて仕方なかった。平日にオーズでいろんな先輩に教えていただくことも、毎週の公式練も、全てが楽しかったのを覚えている。公式練ではストイックな師匠と器用に滑る兄弟弟子についていきたくて頑張っ練習した。気付けば毎日スキー場に行っていた。

そんな中で1月に怪我をし、スキーに行けなくなった。楽しそうにスキー場に通う同期が羨ましかった。新人戦選考会にも出られず、ダウンヒルを滑る同期を下から見ているのは本当に辛かった。スキーと怪我のことを考えては泣く毎日。岩岳の少し前に復帰したが感覚を取り戻すことができず、スキー場でも涙が止まらなかった。シーズンが終わったらスキーをやめようかと本気で考えていた。

岩岳でも前向きにはなれなかったが、新人戦の日はメッセージカードの温かい言葉と先輩方や同期の励ましに救われて少し幸せな気持ちになれた。自信はなかったが、今までの感謝の気持ちを少しでも返すつもりで精一杯滑った。この日は大会のいつもと違う雰囲気の中で周りを意識せずに滑ることができ、スキーを純粋に楽しめた。それまでは同期と比べすぎて結果に固執していたのだろう。新人戦の夜、師匠が言ってくださった来年のスキーの話もきっかけになり、もう少し頑張ってみようと思えた。

朝里大会では準決勝を滑ることができて少し自信がついたように思う。点数に縛られすぎることなくスキーを楽しめた反面、ブルーでは1度も止まることができず、コブは77を出し、自分の実力不足も実感できる貴重な経験となった。

今年の目標は色々な意味を込めて、楽しくスキーをすることだ。来年も思い通りにいかず、辛いこともあるだろう。それも含めて2年目のシーズンが終わった時に楽しかった、と言いたい。そしてスキーを続けて良かった、と思いたい。

最後に、スキーの技術はまだ未熟だが、エレでスキーを始めた私をここまで成長させてくださった先輩方、一緒に滑ってくれた同期、私を奮い立たせてくださった師匠と兄弟弟子、辛かった時期に声をかけてくださったり、励ましてくださった全ての方に本当に感謝している。ありがとうございました。



---

## 北村文香

初めてのシーズンは想像もしていなかった様々なことがあった。周りの方々に支えられて終えることができたと思っている。

私にとってエレの新歓が初めてのスキーだったため、滑れない自分と同期との差を実感するのが怖く、憂鬱な中でシーズンを迎えた。しかし、いざ始まると親切な先輩方のおかげで毎日できることが増えていき、スキーが楽しくて仕方なかった。平日にオーズでいろんな先輩に教えていただくことも、毎週の公式練も、全てが楽しかったのを覚えている。公式練ではストイックな師匠と器用に滑る兄弟弟子についていきたくて頑張っ

て練習した。気付けば毎日スキー場に行っていた。そんな中で1月に怪我をし、スキーに行けなくなった。楽しそうにスキー場に通う同期が羨ましかった。新人戦選考会にも出られず、ダウンヒルを滑る同期を下から見ているのは本当に辛かった。スキーと怪我のことを考えては泣く毎日。岩岳の少し前に復帰したが感覚を取り戻すことができず、スキー場でも涙が止まらなかった。シーズンが終わったらスキーをやめようかと本気で考えていた。

岩岳でも前向きにはなれなかったが、新人戦の日はメッセージカードの温かい言葉と先輩方や同期の励ましに救われて少し幸せな気持ちになれた。自信はなかったが、今までの感謝の気持ちを少しでも返すつもりで精一杯滑った。この日は大会のいつもと違う雰囲気の中で周りを意識せずに滑ることができ、スキーを純粋に楽しめた。それまでは同期と比べすぎて結果に固執していたのだろう。新人戦の夜、師匠が言ってくださった来年のスキーの話もきっかけになり、もう少し頑張ってみようと思えた。

朝里大会では準決勝を滑ることができて少し自信がついたように思う。点数に縛られすぎることなくスキーを楽しめた反面、ブルーでは1度も止まることができず、コブは77を出し、自分の実力不足も実感できる貴重な経験となった。

今年の目標は色々な意味を込めて、楽しくスキーをすることだ。来年も思い通りにいかず、辛いこともあるだろう。それも含めて2年目のシーズンが終わった時に楽しかった、と言いたい。そしてスキーを続けて良かった、と思いたい。

最後に、スキーの技術はまだ未熟だが、エレでスキーを始めた私をここまで成長させてくださった先輩方、一緒に滑ってくれた同期、私を奮い立たせてくださった師匠と兄弟弟子、辛かった時期に声をかけてくださったり、励ましてくださった全ての方に本当に感謝している。ありがとうございました。

---

## 後藤雅貴

このSPURで昨年を振り返ると、北大に入学してからエレに入って、特に冬季シーズンは恐ろしく内容の濃い時間を過ごしたと感じる。この1年はすべてのことが新しいことで目の前に来ることをこなすだけで精一杯だった。しかし、僕はエレに入ってからスキーについてだけでなく色々なことを学ぶことができたので大変ながらもよい1年だったと思う。

まず、エレに入部した理由は単純にスキーがうまくなりたいという気持ちがあったからだ。新歓でのスキーの楽しさと部の雰囲気の良いということから、時間はかかったがあまり深く考えずに入った。そうしたら、すぐにコンパでの先輩への接し方(上座など)や遅刻厳禁など社会的なことを色々教えられた。高校の部活ではそういう面ではゆるかったもので、新鮮であったし、気を引き締めないといけないと思った。ま

た、大学を機に実家を離れて1人で生活して、エレの活動をしながら自己管理をしていく大変さも分かった。こういうスキー以外の面でも、エレに入って色々学ぶことができたので良かったと思う。

さて、昨シーズンでのエレの活動を振り返ってみようと思う。振り返ると、もっとこうすればよかったというのと何より1番は悔しいという気持ち大きい。

まず、オフシーズンに関して言うと、インラインとスラックラインなどをもっとやっておけば良かったという後悔がある。筋トレや体幹は中高時代の部活で鍛えられていたので問題はなかったが、インラインとスラックラインはほとんどできないままオフシーズンが終わってしまった。その結果がスキーを始めてから出たしまったと思う。不安定なバーンの中で耐えながら自分の滑りをするということができずに何度も何度も滑走中に転んだ。おそらく、同期の中で1番転んだのではないかと思う。しかし、転びまくるがケガをしなかったことは幸いだ。これは、体幹と筋トレの効果だと信じたい。この反省を生かして、今オフシーズンはインラインとスラックラインを積極的にやっていきたい。また、スキーを実際にやって、オフトレでやるトレの意味などが分かったので、これからトレの質も上げていきたい。

そして、冬季シーズンについては、やはり悔しいということに尽きる。新人戦選考会・岩岳・朝里大会の結果が良くなかったからだ。結局、1年目での1級取得も達成できなかった。岩岳の総滑の自分の得点を見たときは、悔しくてたまらなかった。今思い返すとシーズン初期はなんとなくスキーに行く感じであったが、岩岳後は悔しさからスイッチが入った気がする。周りの同期はみんな上手で大会を重ねるごとに、自分の力のなさを本当に

実感した。また、シーズン中のスキー場でもっと積極的に先輩にお願いして教えてもらえば良かったと思った。1人でなんとなく滑ることが少なくもなく、結果練習の質が落ちた。今シーズンは積極的に先輩に聞きにこうと思う。こういう風に、あの時の悔しさや後悔を挙げだすときりがないので、もうこの辺で終わりにする。

しかし、結果を出すことができなかったのは悔しいが、スキーを楽しむことができたということは確実に言える。岩岳のような苦しい時もあったが、スキーは楽しいと思えることで乗り越えることができた。また、周りにいる同期や先輩方に色々助けられた。特に、師匠には多くの迷惑と心配をかけてしまったが、熱心に指導してくれたことに本当に感謝したい。

色々あったが、結果エレに入って良かったと思う。今シーズンもスキーを楽しんでいきたいと思うが、やはり結果を出したい。そのために、昨シーズン後悔したことを今シーズンはしないようにしたい。

---

## 佐藤修平

スキーをしたいがために北大に入った私が初めて1年間スキーに向き合って感じたことは、美しさを競う競技が難しいということである。今まで経験してきたスポーツはサッカー、テニス、バスケといった競う相手が正面にいるものや、1秒でも早くゴールした方が勝つ水泳であった。しかし、基礎スキーはジャッジが自分の滑りを見てそれに点を与えるもので、上のスポーツのどれにも属さない種類のもの。自分ができていると思っても見てももらう人からはできていないところが浮き彫りで、特に癖なんかはいくら意識して直そうとしてもすぐに癖が出てきてしまうため、今も改善できずに苦労している。また選手とジャッジの距離が離れているため、少し悪い所を改善するには自分の意識としては少しではなく大げさに変えないと伝わらないことには早く気づいておきたかった。この大げさにするという心掛けは練習で特に大切なものだったので、来シーズンでも忘れないでいたい。

シーズンでの滑走日数はあまりのびなかった。もう少し行きたかったところだったけど、勉強をおろそかに

できないと思ったので、課題に時間を割くことが多かった。その分、行けた日には練習すべきことに集中して、何度も同じことを繰り返した。先輩に教えてもらっただけでは十分でない練習を反復して自分の糧にすることで少しずつ体の使い方が良くなっていくのが感じられた。自分の体と板と雪面とを調和させることの難しさを今シーズンで痛感して、岩岳での悪雪の苦労を踏まえて来シーズンも技術を向上させたい。

先輩に教えられて引っ張ってもらえた1年から、少しでも成長して今後は後輩に教えられて引っ張ってほしい2年になれるよう、気持ちを再度引き締めて活動に取り組んでいきたい。

---

## 柴田伸彦

2017-2018 シーズンを終えて、初めての本格的なスキーシーズンを過ごした1年間を振り返る。

エレガントスキー部にはちゃんとスキーを習ったことがないから習いたいという気持ちで入った。そしてうまくなくてより一層楽しむことが目的だった。今まで全く知らなかったことがたくさんの方から学べてとても有意義であった。その反面これほどスキーを嫌いになったことはないほど嫌いになった。過激な表現だが、いわゆる挫折だ。その時は何をしてもスキーが楽しくなかった。スキー場へ行くのがだるかった。特に毎週日曜の公式練は萎縮の毎日であった。技術的にはもちろん、精神的にも参っていた。来シーズンはこのようなシーズンにはしたくない。もちろん挫折はあるだろうが、入部当初思い描いていた、もっと生き生きとした、スキーを楽しめるシーズンにしたい。そのためには、技術を磨くための反復練習はもちろん、色んなスキー場へ行き、色んなコースを滑り、色んな滑り方をしたい。具体的な目標も掲げているが、まずその大前提として以上のようなことを掲げる。黙々と頑張るのみ。

以上

---

## 新川未緒

私がエレガントスキー部への入部を決めたのは大学1年生の12月です。長い春休みをどう過ごそうか考えてスキーに沢山行こうと思い、それなら上手くなりたいと思って調べていたら、辿り着いたのがエレのHPでした。PVで滑っている先輩たちが皆格好よくて、オフシーズンも大学生らしく楽しそうで、自分にしては珍しく直感的に入りたと思いました。

5月に活動が始まったら、全てが楽しかったです。色々言いながらも仲良くしてくれる同期、優しく見守ってくださる先輩方のおかげで、オフシーズンは何にでも全力で取り組むことができました。思い返せばもっとできたと思うこともありますが、1年目としてはまずまずかなと思います。

シーズンが始まってからは色々な事がありました。まずは、12月のキロロ検定で1級に落ちました。コブで-1でしたが自信を持てたのは横滑りだけなので、実力不足だったと思います。兄弟弟子二人がそれぞれの級で受かっていて、次の日の公式練は泣きそうでした。1月の個人戦選考会への出場は、間違いなく人生で一番悩んだ決断でした。色々な事が短期間で起こって、頭の中がぐちゃぐちゃになって、結局は自分の気持ちに正直に決めました。本番では「1年目らしく元気に滑る！」ことを目標にして、10位でした。団体の補欠をやらせていただくことになりました。団体練では団体Bチの方々やOBさんが補欠の私にも目を掛けてくださったので、初めての経験を楽しむことができました。一方、普段の練習は何をやっても何も変わっていないような感覚で、シーズンで最も辛い時期でした。2月の新人戦選考会は個人戦選手だから関係ないで

はなく、意地を見せたいと思っていましたが、結果は8位で、コブを除いたら10位という悲惨なものでした。しかしこのことで、本気で変えようとしなければ何も変わらないと気づかされ、それからの練習は意地でも前日より上手くなってやるという意識で滑るようになりました。藻岩での練習は先輩方と一緒にやらせてもらい、少しずつでもできることが増えている気がして充実感を得られました。一方で、自分より上手い同期がたくさんいる中で自分だけがそのような待遇を受けることに申し訳なさを感じ、同期が皆で練習しているのを見る度に寂しさも感じました。本当に我儘で贅沢な話なのですが、当時は本気でそう思っていました。しかしそんな時には団体裏での練習で前向きになることができました。毎日私の滑りを変えようと教えてくださり、一緒に練習してくださった先輩方がいたから、最後まで頑張りきることができたのだと思います。

岩岳では概ね実力を出せたと思います。師匠や兄弟弟子がサポートについてくれて、たくさんのメッセージをもらって、スタート位置に立つと応援の声が聞こえて、全力でやるしかないという心持でした。結果は86位と、個人戦選手として育ててくださった部に少しでも貢献できて良かったです。一方で朝里大会では、自分の弱さが露呈しました。岩岳で気持ちを切ったつもりはなく、本気で挑みましたが同期は上手くなっていました。点数や種目どうこうではなく、滑りが明らかに上でした。とにかく悔しくて、教えてきてくださった先輩方に申し訳なくて、どうしようもありませんでした。後悔しても遅いので、春は来シーズンの1月目と思って練習しました。

来シーズンは結果にこだわっていきたいです。大会の順位もそうですが、毎日貪欲に滑りの変化、上達を追い求めて行きます。私は練習することで満足しがちなために、12月と4月で滑りの癖も指導される内容も変えられなかったのだと思います。そして、大好きなスキーをやっているにもかかわらず上達しないから楽しめなくなってしまったのだと思います。結果にこだわり、日々上達することで、シーズンを通してスキーを楽しみたいです。具体的な目標としては、道予出場、団体Aチ入り、岩岳個人戦50位以内、朝里個人戦10位以内です。来シーズンはスキーに全力を捧げられる最後の年になるかもしれないので、今年の実験を生かしてこれらの目標を達成し、再来年以降につなげていきたいと思っています。

最後に、理解力が乏しく色々面倒くさいところの多い私を懸命に教えてくださった師匠をはじめ先輩方、OBさん、コーチの方々、一緒に練習をしてくれた兄弟弟子の二人と同期、スキーをさせてくれる家族に本当に感謝しています。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

---

## 鈴木良育

昨年を振り返っていきたいと思う。まずは、オフシーズンから。週3のトレはとても楽しかった。1年生なのでスキーにつながると言われてもピンと来なくて、なあなあでやってた感じはあったけど、トレ自体は楽しかったので毎回楽しみにしていた。オフシーズンで唯一悔やまれることは、インラインをあまりやらなかったことだ。同期のみんなが知らないうちに自分よりはるかにうまくなっていてやる気を失ってしまい、インラインを軽視していたこともあって全然インラインをしに行かなかった。シーズンを通してインラインの重要性を痛感したので、今年はガンガンやりたいと思っている。オフシーズンはこの程度で。

次はシーズン中について。滑走日数は94日。11月は土日しか行かなかったが、2回目の公式練で兄弟弟子と師匠に滑走日数で4倍程差をつけられていることが発覚して12月はその差を埋めるべく週6のペースでスキー場に通った。スキー場に行けば先輩方が教えてくれるので、自分でも実感できるほど上手くなっていき、早く滑りに行きたいと日ごろから思うようになっていた。バイトをシーズン中も続けていたので、体力的にかなりきつかったが、そんなことよりもこの頃はスキーが楽しかった。そして迎えた2月。初めて自分の滑りが

評価される新人戦選考会あった。選考会前は割と自身があったが、練習でしていた滑りが全くできず、結果はさんざんだった。かなりショックだったけど、岩岳で絶対リベンジしてやるぞとなんとか気持ちを奮い立たせて、そのあともほぼ毎日スキー場へ通った。そして迎えた岩岳の新人戦。またしても練習でしていた滑りを本番で出来ず、結果は納得のいくものではなかった。悔しいというより自分が情けなさすぎていやになった。もうスキーなんてやりたくないと思っていたが、3月に2級、1級を取得できたことでなんとか気持ちが折れずにシーズン最後までやり過ごすことができた。一度でいいから自分の結果に対して喜べるように来シーズンは頑張りたいです。

最後に、シーズンを通して教えていただいた先輩方やコーチの皆さん、一緒に滑ってくれた同期のみんなには感謝しています。ありがとうございました。特に一からスキーを教えてくださいました師匠の彩さんには本当に感謝しています。結果を出して恩返しをすることが出来なくて申し訳ないです。来年は頑張ります。

---

## 関一輝

来シーズンの目標

- ・1級の取得
- ・岩岳大会 180位以内

オフシーズンを振り返って

オフシーズンは比較的充実した練習ができたと思う。トレ合宿でも時間はかかったが、すべてのメニューをこなすことができた。通常のトレーニングもほぼ休まず参加できたのはよかった。また、自分はエレに入って初めてインラインスケートを始めた。最初は立つのがやっとの状態から、坂を下れるまでになったのはとても達成感があった。18年のシーズンは、けがをしない体づくりをモットーにオフシーズンからしっかりとトレーニングをしていきたいと思う。

今シーズン（冬）を振り返って

今シーズンを振り返ると、どうしても悔しい思いでいっぱいになってしまう。ケガの影響で、岩岳で自分だけビブをきるができなかった。今年からスキーを始め、一生懸命岩岳に向けて練習してきただけに、それがとてもつらかった。だから今年こそはけがをせずに滑りきりたいと思う。ほかの同期におくれを取っている状態なので、少しでも早く追いつけるように頑張ろうと思う。また、今年からオガサカチームにもはいるので、基礎を怠らず少しずつでも上達していきたい。

具体的には、左足が乗る際にターンマックス直後に板の先を内側に回してしまうので、しっかりと外足に乗って内足で支えることを意識する。(ターン後がおかしい→ターン後半の形がよくない)

また、うまく乗れていないと板が暴れるので、ターン後半は斜面を押すのではなく、反発に耐えるイメージを持つ。

さらに肩、腰、膝を一直線にして圧を逃さないようにして、体重移動を早くしてターン前半から重さかける、足首をしっかり入れて、切りあがらないようにすることを意識していきたい。

---

## 高橋 玄

この一年間、楽しいこと辛いこと、嬉しかったこと、いろいろなことがありとても充実していてエレに入っ

て本当に良かったと思う。いろいろありすぎて書ききれないので、なかなか書くこともない内心思っていたことをつらつらと書いていこうかと思う。

僕はまず北海道はロマンに満ち溢れていると思う。僕は大学生活でこのロマンをすべて吸収してやろうと思い、その思いの上でサークルや部活を決めていこうと思った。北海道らしいものとは何だろうと考え、まず思いついたのがスキーであり、エレの新歓スキーに参加し、気づいたら入部していた。エレの先輩は本当にやさしくて、かつ尊敬できる人たちであり、僕もそのような先輩に成ればいいなと思った。

僕は農学部に行きたくて、農学部への移行を最重要視していたので成績のことは年間ずっと頭の片隅にあった。オフシーズンが始まり、トレーニングやジンパ、トレ合宿、榆陵祭など様々な楽しい行事があったが、その分時間的、体力的に勉強に割ける時間は少なくなり、かつ初めての一人暮らしでまだ慣れていないのに成績はとらないといけないという状況が発生した。さらにマテリアル代はかさみ、バイトもしないと経済的にエレを続けられないのではないかというこれから先の不安も抱えていたため、正直もどかしく辛い1年生前期であった。同期には僕よりももっとやばい経済状況のやつとかやばい食生活のやつがいたが、本当によくやってるなど感心した。そんなこんなでなんとか前期を乗り越え、夏休みはたくさん遊んだ。

いよいよスキーシーズンが近づき、年内2級、一年生のうちに1級取得を目標に掲げて頑張ることにした。シーズン初期はスキーに行けば行くほど上達が実感できて楽しかった。ただシーズンを振りかえってみると楽しかったことと同じくらい辛いことも多かった。辛い出来事の始まりは12月のキロロの2級検定を受けた時からであった。年内2級を掲げていたこともあり、受かったらいいなくらいの軽い気持ちで数人の同期と検定を受けた。大きなミスもなく、もしかしたらとは思ったが結果はだめだった。滑走日数が同じくらいだった当時の関は受かった。スペックの差が突き付けられたようでなんだか悲しかった。結局年内2級は叶わず、一方で1月中旬くらいまでに級もちの人を含め同期の半分以上の人が2級を持っていた。同期の成長スピードの速さに驚き、また自分だけ取り残されてしまうのではないかという焦りを感じた。一度落とされたため、十分な自身がつくまで2級は受けたくなかった。級別検定は受かった人、落ちた人で明確に実力が線引きされてしまうというのが怖いところである。1月末に再び同期数人で2級を受けた。自分は果たして成長しているのか、そしてこれで落ちたら精神的な面でスキーを続けられるかどうか不安で仕方がなかった。結局この時受けた同期は全員合格し、一回落ちていた分、自身の成長も実感でき喜びはものすごく大きかった。2級を取ってやっと初心者を脱却できたと思えて一安心していたのもつかの間、この時からヤツとの戦いが始まった。ヤツと僕は2級を同じ場所同じ点数で同時に取ったということで、状況的には完全にライバルということになり、なおかつヤツは猿のように僕への競争心をむき出しにしてきた。ちょうど新人戦選考会が迫っていたためここでヤツとの1回目の勝負が行われることとなった。しかしこの時期は期末テストに追われスキーには存分に時間を費やせなかった。ヤツは物理のテストをほぼノー勉で行くという愚行を冒してまでスキーに行くという反則技をかけてきた。結局新人戦選考会では3ポイント差で負け、ヤツの次の順位につくことになってしまった。当然ヤツは猿のように喜んだ。正直ものすごくうとうししかったし、悔しかった。それと共に自分の技術が全然未熟であることも思い知った。次の戦いを岩岳に定め、新人戦選考会でダメダメだった大回りを藻岩時期いっぱい使って磨くことにした。選考会と総理生活の終わりと共に春休みと藻岩時期が始まった。春休みは本当にスキーしかしていなかった。朝起きて飯食ってスキーして飯食って風呂入って寝る。まさにスキーをする屍である。この藻岩時期に大回りを何度も何度も南斜面で練習した。藻岩時期は辛いと聞かされていたが、スキー以外のことを何も考えずに練習し自分が成長していく喜びのほうがはるかに大きくて、この時はスキーがとにかく楽しかった。大回りも上達してきてこれならヤツに勝てると思った。確かな自信をもって迎えた岩岳大会、僕の大回りの練習の成果は点数には反映されなかった。ポイントも取れなければ、ヤツにも惨敗した。努力が裏切られた気分であった。納得がいかなかった。スキーが嫌いになりかけた。そのせいか、飲み会では少々騒ぎすぎてしまった。

岩岳大会が終わると約 1 週間後に朝里大会があった。これが今シーズン最後のヤツとの戦いになることは分かっていたが、何しろ岩岳との期間が短く自分の滑りを変えるほどの時間的余裕はなかったし自分の滑りにも自信がなくなっていた。藻岩時期の努力は本当に無駄だったのかももう一度試したかったので、朝里大会ではそれを試して終わろうと思っていた。迎えた朝里大会、大回りや総滑の点は思っていたより出た。それに加えプルークの点もかなり出た。ヤツには 1 ポイント差で勝ち準決勝に進むことになった。努力は無駄ではなかったのかと思い、またヤツにも勝てるととても嬉しかったが、準決勝に出るということはグリーンコブやリズム変化小回りをやる、つまり僕にとってはノー勉で試験を受けるようなものであり憂鬱であった。雨での中止を祈ったがしっかり晴れた。リズム変化小回りでは審査員に笑われ、グリーンコブではバカみたいな点数が出たが先輩や全日本レベルの選手に交じって競技できたのはとても良い経験になった。怪我せず無事に帰ることができほっとした。朝里後にうけた 1 級も無事取得でき、今シーズンの目標はなんとか達成できた。

シーズンが終わって振り返ってみれば、滑走日数は 92 日、学部学科は第一志望のところに決まり、1 級も取得でき、自分としては悔いなく、なんとかうまくやりきったと思っている。それに加えてシーズンを共に乗り越えた仲間や楽しかった思い出がものすごくたくさんできた。投資した以上のものが得られたと自信を持って言える。

次に、今年目標についてである。今年の大会での具体的な目標などはまだ何も決まっていないが、とりあえずオフシーズンは腰の柔軟性、持久力を鍛えてタフな体になりたい。ハイシーズンは岩岳個人戦に出られたらいいなあと思っている。それらを意識して頑張っていきたい。

最後に、昨シーズンご指導いただいた先輩方、師匠の夏樹さんと春奈さん、本当にありがとうございました。また、同期のおかげで楽しく過ごせました。ヤツもなんだかんだ自分にとって良い着火剤になっていたと思います。ありがとうございます。今年もヤツに負けないう頑張ります。

---

## 高橋夢伽

今年目標

コブを滑れるようになって一級取得

昨シーズンの反省

1. 運動経験がなく、オフシーズンのトレに着いて行くのも大変でした。それぞれのトレーニングがスキーにどのようにつながるのか、よく分からずにただただやっていましたが、シーズンに入ってから筋トレと強化練習の藻岩シーズンを乗り越えるための体力の大切さがとても良くわかりました。シーズンを通して、実際に指摘もされましたが、筋力と体力のなさは痛感しました。
2. 急斜面やコブになると、どうしても恐怖心が先行してしまったと思います。上達のためにはこれを克服しないとイケないとよくわかりました。守りに入ればばかりだとできることは増えないので、今シーズンは少しずつ克服できたら、と思います。
3. 全体的に、特に授業後に行くオアズなどでビデオを撮ってもらう機会が少なかったと感じました。もっと積極的に同期や先輩にお願いしてビデオを撮ってもらったり、教えてもらったりすべきでした。また、スキーノートを途中から書くのを(面倒になって)辞めてしまったので、今シーズンは内容は少しでもいいので、きちんと書き続けられるようにしたいです。なんとなく流れでスキーに行くのではなく、もう少しきちんと考えるべきだと思いました。また、周りの皆がすごくストイックで尊敬していたけれど、私の性格的にそこまではなれませんでした。でも、自分への厳しさも絶対に必要ではあると思うので、エレ以外のこととのバランスを保ちつつ、エレでの活動で後悔しないように今年一年やっていきたいと思っています。

---

## 中島慧

僕は、スキーがしたくて北大を受験しました。毎週のようにスキーに行く生活に、小学生の頃から憧れていたんです。本格的にスキーを学んで上手く滑れるようになりたいと思い、北大に4つあるスキー部の中から基礎スキーをする部活を選ぶことにしました。で、エレに入りました。

オフシーズンは、楽しかったです。苦手だったバスケもちょっとは上手くなりました。夏休みは毎日のようにインラインを先輩方に教えてもらいました。この時、師匠(この時は師匠になるとは知らなかったけど)、背中が反って出っ尻になるという癖を指摘してもらって、この時期に自分の欠点を把握できたのは大きかったです。また、スキーに必要な体の動かし方も、なんとなくですが知ることができました。このおかげでシーズンに入ってから、教わったことへの理解が早まりました。

シーズンに入ってからは、とにかく時間があったらスキーに行きました。教わったことを早く吸収しようと、必死に考えて滑りました。公式練、楽しかったです。でも僕はコミュ力が皆無なので、師匠も兄弟弟子も、やりにくかったと思います。本当にすみませんでした。コミュ力上げます。

岩岳と朝里の新人戦では、表彰台に乗ることができました。師匠をはじめ教えてくださった先輩方、また、一緒に滑ってくれた同期のおかげです。ありがとうございます。

ただ、表彰台に乗れたのは、ノープレッシャーだったことが大きかったです。ポイントの仕組みや、表彰台は何位から乗れるのか、ということは2月になるまでわかっておらず、ただ上手くなることだけを目指して練習していたので、本番もあまり気負うことなく滑っていました。来シーズンからはそうはいきません。個人戦に出場することになったら、エレの順位に大きく関わってきます。来シーズンはそのようなプレッシャーがあることを念頭に置いて、今年の結果におごり高ぶることなく、大会で思い切り滑れるように普段の練習から意識したいと思います。

---

## 丹羽さくら

去年の4月、大学生になって同じクラスで友達ができその子たちに新歓スキー行こうよ、と誘われてとりあえずエレのピラを見て新歓スキーに行ってみました。最初はスキーをやりたいとは全く思っていませんでしたが、新歓スキーや女子会で話してくれた先輩方の雰囲気がいいな、楽しそうだなと思って思い切って入りました。

そもそも私はスキー自体したことがなく、新歓スキーで初めて板をはきました。最初に板をはいた時、止まれなくてた○みさんに突っ込んでしまったことを今でも覚えています。あの時はすみませんでした。今年2年目になって初心者教えることの大変さが分かって、去年の新歓スキーでやさしく楽しく対応してくださった先輩方には感謝しています。

そんな感じでエレに入ったので、去年はシーズンに入るのが怖かったです。オフシーズンはスキーのイメージもまだ分からないまま先輩方に頑張っついでいこうといった感じでした。今年オフシーズンはスキーにどう生きてくるのか考えながらトレに取り組んでいきたいです。私たちの代は女子の経験者が多かったのでシーズンインが近づくとつれて不安も大きくなり、まだシーズンに入ってほしくないな、なんて思うこともありました。最初は一人で行くのが怖かったので、○っちーと一緒にオーンズに通って先輩にたくさん教えてもら



っていました。ブルークすらまともにできなかった私にもシーズンを通して丁寧に教えてくださった師匠をはじめとする先輩方、コーチの方々、同期にはとても感謝しています。ありがとうございました。

スキーを始めて最初の大会だった岩岳大会は少し苦い思い出になりました。出発日に急に右耳の聞こえが悪くなり、めまいで3、4日くらい起き上がれずに寝込んでいました。先輩に病院に連れて行ってもらったところ、突発性難聴でした。なんで今？なんで自分が？と思ってすごく辛かったです。新人戦は何としてでも出たいと思って半ば無理やり出させてもらいましたが、結果は情けないものになってしまいました。自分はほとんど先輩方のサポートはできなかったのに、しっかりサポート・応援をしてくださった先輩方には本当に感謝しています。結果を出せなくて申し訳ないです。

結局、3月いっぱいめまいも治らず治療に専念していたためほとんど滑れず、朝里大会も出られず、二級も受けられずといった感じで何も成果をあげることができないままシーズンが終わってしまいました。師匠には本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

お忙しい中私個人にも対応して病院に連れて行ってくださった先輩方、一人で歩けなかった私を支えてくれた方々、岩岳が終わった後も心配して個人的に連絡をしてくれた方々、会った時に声をかけてくれた方々には気持ち的にもとても助けられました。特に、一番つらい時に「会いに行くよ」と言ってくれたふ○かと○っち一、1カ月ぶりくらいに滑るときにお忙しい中付き合ってくださいたま○こさん、本当にありがとうございました。

エレに入ってからの1年間は楽しいこともつらいこともいっぱいあってすごく濃いものになりました。そして、たくさんの人に支えてもらいました。感謝しています。来シーズンはまず2級を回収するところから始めたいと思います。これからもよろしくお願いします

---

## 本多敦

まずは昨シーズンの簡単な振り返りをしつつ、反省を書きたいと思います。

スキー経験のほとんどない自分は、ハの字でも滑れない状態からのスタートでした。初めの頃はただただスキーを楽しんでいたのですが、シーズンが進むにつれ思い通りにうまくなれないことに対する焦りや辛さが強くなっていきました。大会が始まるころには自分の滑りに対してすっかり自信を無くし、人前で滑るのが正直嫌になっていました。そんな心境でいい結果が出せるわけもなく、悔しい思いを何度もしました。この悔しさを忘れないためにも、特につらかった2月後半～3月前半のことを書いていきたいと思います。

岩岳。あろうことか新人戦2日前に風邪を引いてしまいました。同期や先輩方が選手として、サポートメンバーとして頑張っている時、隔離部屋で一人寝ている自分が本当に情けなかった。薬で無理やり熱を下げて新人戦に出場することはできましたが、練習してきたことを何も発揮できず、滑り降りてくるのがやっとな。悔しいと思うことすらできず、ただただ虚しさを感じたまま1年目の岩岳が終わってしまいました。

岩岳から約1週間後、2級の検定を受けました。一緒に受けた同期がみな当たり前のように受かる中、自分だけ不合格。スキーが下手なのは自覚していましたが、さすがに2級は受かるだろうと思っていたので本当にショックでした。岩岳での辛い経験も思い出され、帰りのバスの中で何度も泣きそうになりました。点数ではなく合格・不合格というはっきりとした形で自分の実力の無さを突き付けられたこのときが、昨シーズンで最も辛かった瞬間でした。

他にも細かい反省点はあるのですが、ずっと後ろを振り返って暗い気持ちになっていてもしょがないので、これまでの反省を踏まえて新たな1年をどのように過ごすか、目標と共に考えていきます。

オフシーズンでは、昨シーズンを通して感じた柔軟性の無さを克服していきたいです。トレ以外の時にもス

トレッチをするなどして膝や股関節を柔らかく使えるようにしていこうと思います。また、今年こそはインラインに逃げずに取り組んでいきます。

シーズンでの目標は、年内に1級をとること。コブを筆頭にまだまだ課題は多く達成することは厳しいかもしれませんが、昨シーズン伸び悩んだ分を取り返すにはそれぐらいの気持ちで臨まなくてはダメだと思っています。早めに1級を取得できればその後の選考会等に弾みがつきいい流れでシーズンを過ごしていけると思うので、先のことは考えずまずは目標に向けて全力で取り組んでいきたいと思っています。

散々ネガティブなことを書いておいて信じてもらえないかもしれませんが、エレの一員として過ごしたこの一年間は充実していて本当に楽しかったです。「雰囲気よさそう」というふんわりとした理由で入部しましたが、今では入ってよかったと心から思います。今年からは後輩ができるので、後輩にも同じことを思ってもらえるようにしていきたいです。

最後になりますが、ご指導くださった先輩方やコーチの方々、本当にありがとうございました。特に一から熱心に指導してくださった師匠には感謝してもしきれません。来シーズンこそは「結果を出す」という形で師匠に恩返しできるよう頑張ります！

---

### 森田一平

とても贅沢な1年だった。11月のシーズンインから毎日のようにスキー場に行き、スキーが生活の一部になってしまった。滑走日数は覚えていないが多分100日は滑った。受験期の頃には思い描いていなかった夢のような生活が送れてとても満足している。エレに入ったおかげで先輩やコーチの方々に様々なことを教わり、徹底的にスキーに対して考えることができた。基礎スキーは如何に美しく格好良く滑るかを採点で競う競技なわけだが、その美しく、格好良くということについて自分なりに考えていることがすごく楽しかった。

しかし、いくら自分なりに考えて表現したとしても結果にすぐ結びつくとは限らない。岩岳新人戦43位、朝里新人戦7位、決勝37位と言う残酷な結果が自分の愚かさを証明している。2級持ちで入ったならもうちょっと結果を出してほしかったとゆーたろ一師匠が言っているような気もしなくもない。同期も、2級持ちで入った癖にあいつそんな上手くないじゃん、ダッサ、とどこかで馬鹿にしながら笑っているはずだ。

ここまでを振り返ると、スキー楽しいけど結果ついてこないから辛そうだね。可哀想に。と思わずコメントがしたくなるような文章を書いていたことに気づく。これではただの残念なspurになってしまい読む人もつまらないと思うのでもう少し夢のある話をしようと思います。

来季以降の目標として考えていることはやはり、技術選北海道予選の決勝に進むことです。あわよくば全日本と高望みしているところもありますが、今の自分の実力と北海道予選の厳しさからしたら大学生活中にできることは道予選の決勝に進むことが大きな目標です。そして、その道予選決勝への第一歩として来季すべきことは小樽予選で255ptを小回りで出すことにあると考えています。小樽予選を通過して道予選に行くには1種目当たり255ptを取り続けることが目安とされており、自分が苦手な小回りでこの点数を出せば例え他の種目が失敗したとしても3年目には絶対に道予選に進出できるという自信につながります。そうすれば4年目道予選決勝への道は明確に見えてくると考えています。だから、小樽予選での小回り255pt獲得、そして道予選へ、というのが来季の目標となります。もちろん、小樽予選から道予選に出た場合、今までの先輩がそうだったようにほぼ必然的に岩岳も出れるようになってくるので来季の岩岳優勝奪還にも貢献していきたいと思っています。

---

## 諸岡航太朗

SPUR についてのメールが送られてきて、改めてこの濃かったシーズンがもう終わるという事実を再認識した。光陰矢の如しとはまさにこのことで、エレに入部してから今日に至るまでの時間は飛ぶように過ぎていき、大きな流れとして過去を振り返る余裕は今までなかった。この SPUR という機会を利用して今一度一から見直し、何か来季につながることを見出していきたい。

北海道大学を受験すると決めた段階で大学ではスキーをしたいと強く思っていた。サークルも結局最終的にはエレに入部をした。今でもこの選択は間違えていなかったと思う。

オフトレについてだが、去年は先輩から出されたメニューを言われるがままにこなすだけの一年になってしまった。実際にトレを行っているときは「この動きの何がスキーにつながるのだろう」、「果たしてやり方は本当にこれであるのだろうか」などの疑問を抱かずにはいられなかった。結論から言えば最後までトレの意味は何となくしか分からなかったのだが、こうしてシーズンが終わってから振り返ると、スキーとの直接な関係以外にも大切なことを学んでいたのではないかと思われる。そもそも先輩に言われたとおりにそのまま体を動かすということだけでも初めは難しく、トライ&エラーで試行錯誤を繰り返してようやくできたようなメニューもある程度あったように思われる。頭で考えたことを実際に体で再現するということは基礎スキーの練習において非常に大切なことであり、その第一歩として陸トレは大事なステップだったのではないだろうか。

次にスキーシーズンについて。僕は新歓スキーでは一人でブーツも板も履けないような最底辺からのスタートだった。今はもう覚えていないので後で師匠から言われた話だが、初めの公式練ではプルークで曲がることすらできなかったらしい。そんな僕が周りに追いつくためにはひたすら練習しかないと思い、自然科学実験のある日以外はスキーに行く(週 6)という生活を続けていた。週 6 というのはそれなりに大変(なかには犠牲にしたものも…)ではあったが、完全に一からのスタートだったということもありスキーができるようになっていくのが如実に感じられてスキーに行くことが楽しくて仕方がなかった。その甲斐あってか、最低目標である岩岳の点数獲得を果たし、朝里でも個人的には満足のいく結果が残せた。最大限の努力はできたのではないかとと思っている。

以上一年間を振り返って、来季の目標は同期内順位 8 位以内 である。これは最終的な朝里の順位が同期内で 9 位(同期男子 18 人中)だったからだ。正直かなり控えめな目標ではあると思うが、この目標は現状の最低目標であり、8 位を達成できたら次は 5 位、3 位とさらに上を目指していく。さらに、付随する裏目標として高橋玄に勝つ を掲げる。これは去年から意識していたことであり中盤までは良かったのだが、結局最後の朝里大会では負けてしまった。彼と僕は共に総理から同じ農学部を目指していた点や、スキー経験が浅いところからのスタートという点で共通点があり個人的に意識することが多々あった。(彼が僕のことをどのように思っていたかは定かではありませんが……。) 彼から学ぶべきところは少なくないので、尊敬できる所を良い意味で盗みつつ、今年こそ勝ち越す！これらの小さなステップを着実にこなして行って、初めて最大の目標である個人戦出場 にまで手が伸ばせると考えている。

最後に、一年を通してお世話になったコーチや OB・OG の方々、このような超初心者の僕でも初めからわかりやすく丁寧に指導してくださった二人の師匠をはじめとする先輩方、また長い間練習をともにした同期、ありがとうございました。厚く感謝の意を表して、ここで筆をおくとする。

農産物の乾燥・貯蔵・鮮度保持のパイオニア

# TOMTEN GROUP

TOMTEN（トムテン）は農産物の栽培から収穫・貯蔵・加工・流通・販売に至るまでを応援する総合コンサルティング企業です。オランダをはじめとした世界の農業先進国の技術を日本の農業関係者の皆様にご提案します。



株式会社 TOMTEN

農産物貯蔵庫を専門とする設計・施工会社です。新設倉庫はもちろん、既存の倉庫の改修もお任せください。お客様のご要望に応じた貯蔵施設をご提案します。



本社 〒080-0801 帯広市東1条南7丁目2番地1 TEL : 0155-67-5991 FAX : 0155-67-6609

札幌支社 〒062-0043 札幌市豊平区福住3条7丁目8番16号 TEL & FAX : 011-852-5541

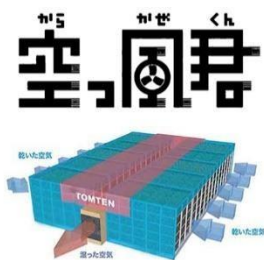
一級建築士事務所(第1477号)

建設業許可：北海道知事許可(建)(管)(電)第03870号



TOMTEN Trading 有限会社

乾燥・貯蔵・鮮度保持技術に関する各種製品を取り扱っています。



**本店** 〒062-0043 札幌市豊平区福住 3 条 7 丁目 8 番 16 号 TEL & FAX : 011-852-5541

**帯広支店** 〒080-0801 帯広市東 1 条南 7 丁目 2 番地 1 TEL : 0155-67-5991 FAX : 0155-67-6609

**<http://www.tomten.co.jp>**

※エレガントスキー部は株式会社 TOMTEM 様  
よりご支援を頂いています。